

アニマルセンター年報 第38号

福岡歯科大学 アニマルセンター

2020



2020 ANIMAL CENTER ANNUAL REPORT Vol. 38

FUKUOKA DENTAL COLLEGE

目 次

アニマルセンタ一年報(第38号)表紙

年 報 目 次

はじめに	アニマルセンター長 田中 芳彦	1
令和元年度アニマルセンター使用者講習会について		2
令和元年度実験動物慰靈祭の模様		3

令和元年度 アニマルセンター 利用状況

1. 令和元年度 利用者数	
1-1. 講座・月別利用者数(SPF室を含む)	4
1-2. 年間講座別延利用者数	
1-3. 過去5年間の講座別延利用者数	5
1-4. SPF室講座・月別延利用者数	6
1-5. 過去5年間のSPF室講座別延利用者数	
2. 令和元年度 動物導入数	
2-1. 動物・月別導入数(SPF室を含む)	7
2-2. 過去5年間の動物別延導入数	
2-3. 分野別・月別動物延導入数(SPF室を含む)	8
3. 令和元年度 動物飼育数	
3-1. 飼育レベル別・分野別・月別動物延飼育数	10
3-2. 過去5年間の動物別延飼育数	12
3-3. アニマルセンターで飼育した動物の系統	13
3-4. 分野別・月別動物使用数(SPF室を含む)	14

令和元年度 動 物 実 験 計 画 審 査

令和元年度動物実験計画審査件数	15
(内訳)倫理基準によるカテゴリ一分類別動物実験承認件数	
過去5年間の動物実験承認件数	16

令和元年度 使　用　者　講　習　会

令和元年度使用者講習会の実施状況	17
過去5年間の使用者講習会の受講者数	19
令和元年度 アニマルセンターを利用した研究業績	
動物を使用した過去5年間の年度別研究業績	20
令和元年度動物を使用した研究業績	22
令和元年度 アニマルセンターおよび委員会の活動状況と資料	
アニマルセンタ一年表(平成31年・令和元年度)	27
会議録(管理運営委員会・動物実験委員会・使用者会議)	29
令和元年度月別光熱水使用量	34
過去5年間の光熱水使用量の推移	
福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学・動物実験規則	35
動物実験およびアニマルセンター使用に必要な手続きの概略図	43
委員・職員の構成(センター管理職員・管理運営委員会・動物実験委員会)	45
編集後記	47

はじめに

アニマルセンター長 田中 芳彦

福岡歯科大学アニマルセンターレポート第38号発行にあたり、ご挨拶を申し上げます。近年、当アニマルセンターの利用状況が活発な傾向になっていたところ、新型コロナウイルスの感染拡大による利用制限と職場環境への新しい対応といったニューノーマルの時代が到来いたしました。このようなことから2020年11月より補助職員1名を増員し、実験動物の飼養と職務の向上に配慮いたしました。

福岡学園では、「口腔の健康を通して全身の健康を守る」とする口腔医学の理念のもとに、より高度なスキル、そして豊かな教養と人間性を備えた口腔医学のスペシャリストの育成を目指しています。その上で、歯学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目指して研究活動を行なっています。

前年度に公益社団法人 日本動物実験学会が実施する「動物実験に関する外部検証事業」を受審し、本学園の飼養保管施設である当アニマルセンターは機関内規程に基づき、環境省の「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」を遵守して適正に管理・運営されているとの検証結果を頂きました。さらに充実すべき点の改善を目指して、引き続き施設の良好な維持管理と運営体制の強化、適正な動物実験の実施に努めているところです。

そのほか、新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めて2020年10月に第44回実験動物慰靈祭を挙行し、本学の教育・研究のために供された実験動物に感謝の意を表し、利用者の皆さんに「苦痛の削減、代替法の選択、使用数の削減」を踏まえた適正な動物実験の実施と実験実施者の責務を認識する機会としました。今後も利用者の皆さんには、当アニマルセンターの利用に対してのご理解とご協力を願いいたします。

令和元年度アニマルセンター使用者講習会について

アニマルセンター副長 泉 利雄
(動物実験委員会副委員長)

アニマルセンター新規利用予定者および利用資格更新者を対象にして、令和元年 5 月 22 日に使用者講習会を開催した。これは文部科学省告示第七十一号と本学動物実験規則の定める教育訓練の一環である。受講者は、新規で 8 名、更新で 17 名であった。

5 月 22 日の講習会の概要 :



1. 田中アニマルセンター長（動物実験委員長）から、「動愛法」や関連する告示と、平成 19 年改正の本学動物実験規則に対する理解と遵守についての説明がなされた。アニマルセンターの活発な利用を促しつつ、規則に則った利用手続きを利用者に依頼した。

2. 泉センター副長（動物実験副委員長）から動物実験の倫理及び動物実験に関連した諸規則並びに実験計画承認申請の手続きについて説明した。

- 1) 動物実験の 3 R (特に新規利用予定者に対して) と動物実験の立案ならびに計画承認申請方法。
- 2) 本学での諸規則と実験計画承認申請の概要。特に更新者への説明では、旧規則からの変更点に重点を置き、変更申請や終了届に関する説明も行った。
- 3) 計画承認申請時の書式作成の雛形を示しながら説明した。また、3 Rに対応した記載方法についても説明した。



3. アニマルセンター山下技能職員から、アニマルセンター利用方法の概要及び新規利用予定者に対し、実験実施者登録申請の方法について説明した。

令和元年度福岡歯科大学実験動物慰靈祭の模様



令和元年度(第44回)実験動物慰靈祭が、10月10日(木)午後4時00分より、アニマルセンターに隣接する卓球場にて、飯盛神社より神官2名を迎え、厳粛に執り行われました。

慰靈祭には、水田理事長、石川常務理事、高橋大学長をはじめ学園の役員、教職員、学園内外の実験動物関係者など70名余りが参列されました。

高橋大学長から過去一年にわたり、医歯学の発展に寄与し、犠牲となった実験動物の靈に対し、深い敬意と感謝並びに哀悼の意を述べられました。

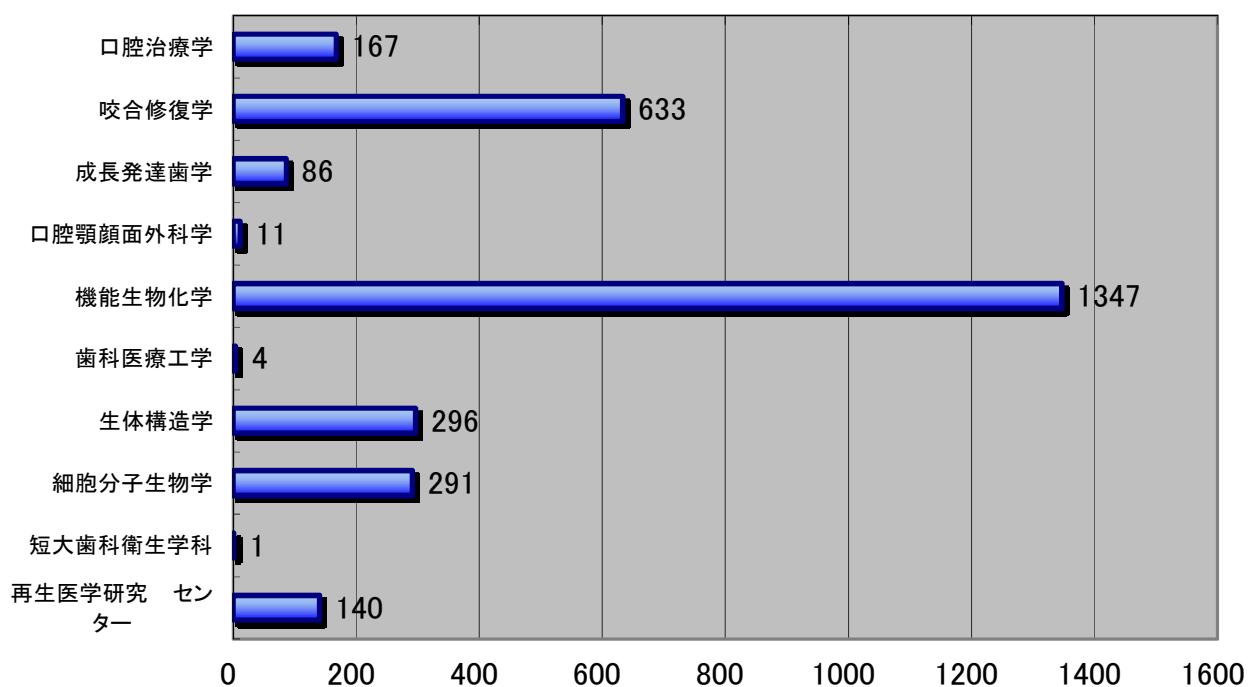


1. 平成31年・令和元年度 利用者数

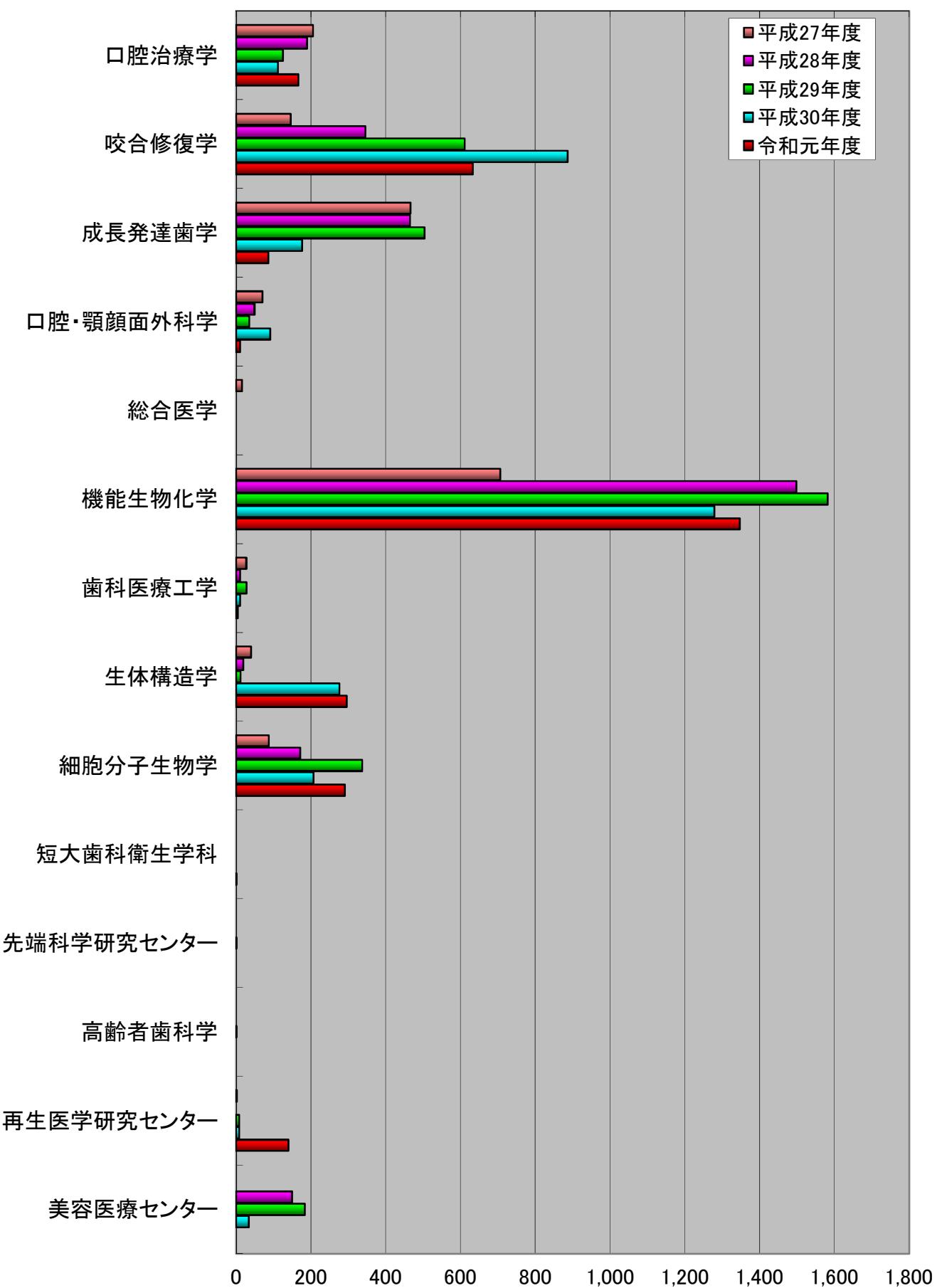
1-1. 講座・月別利用者数 (SPF含む)

月 講座名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔治療学	7	19	7	22	16	17	11	7	13	9	19	20	167
咬合修復学	45	41	58	74	60	59	64	50	43	55	57	27	633
成長発達歯学	11	8	12	5	9	15	9	5	2	3	2	5	86
口腔顎顔面外科学			10				1						11
機能生物化学	71	72	83	135	153	108	124	127	136	108	107	123	1347
歯科医療工学				1	1		1				1		4
生体構造学	21	23	21	24	17	24	30	14	16	26	32	48	296
細胞分子生物学	50	39	27	23	26	12	14	12	12	28	20	28	291
短大歯科衛生学科						1							1
再生医学研究センター	8	11	12	6	8	5	17	12	13	20	9	19	140
合計	213	223	220	290	290	242	270	227	235	249	247	270	2976

1-2. 年間講座別延利用者数



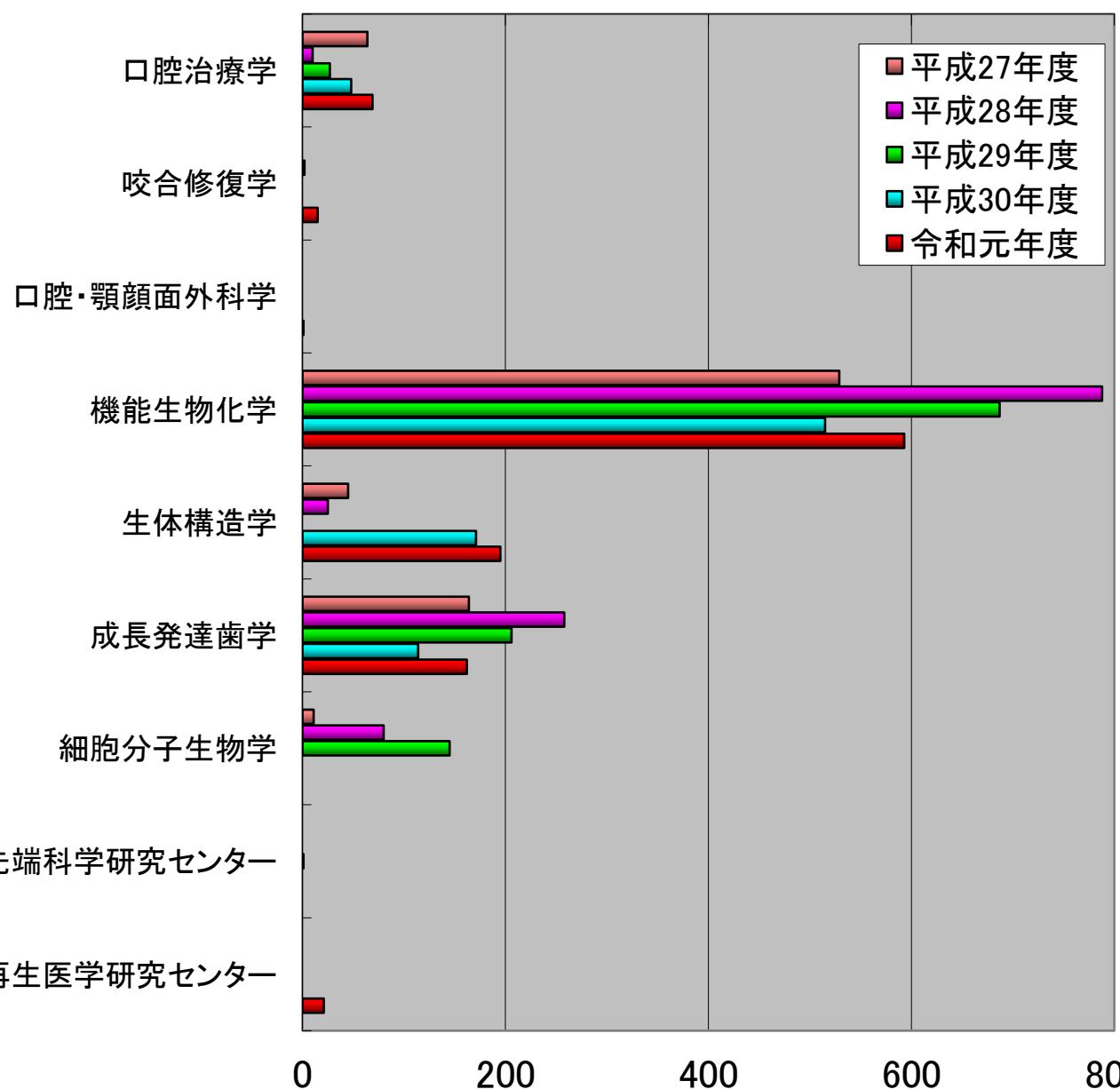
1-3. 過去5年間の講座別延利用者数



1-4. SPF 室講座別延利用者数

月 講座名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔治療学	1	10	7	6	8	7	6		8	7	7	2	69
咬合修復学									1	4	8	2	15
口腔・顎顔面外科学						1							1
機能生物化学	32	46	44	70	58	42	54	40	56	49	50	52	593
生体構造学	21	20	17	20	15	17	17	13	12	13	15	15	195
細胞分子生物学	14	10	12	8	17	6	11	11	10	25	20	18	162
再生医学研究センター						1	5	5	7		3		21
合 計	68	86	80	104	98	73	89	69	92	105	100	92	1,056

1-5. 過去5年間のSPF室講座別延利用者数

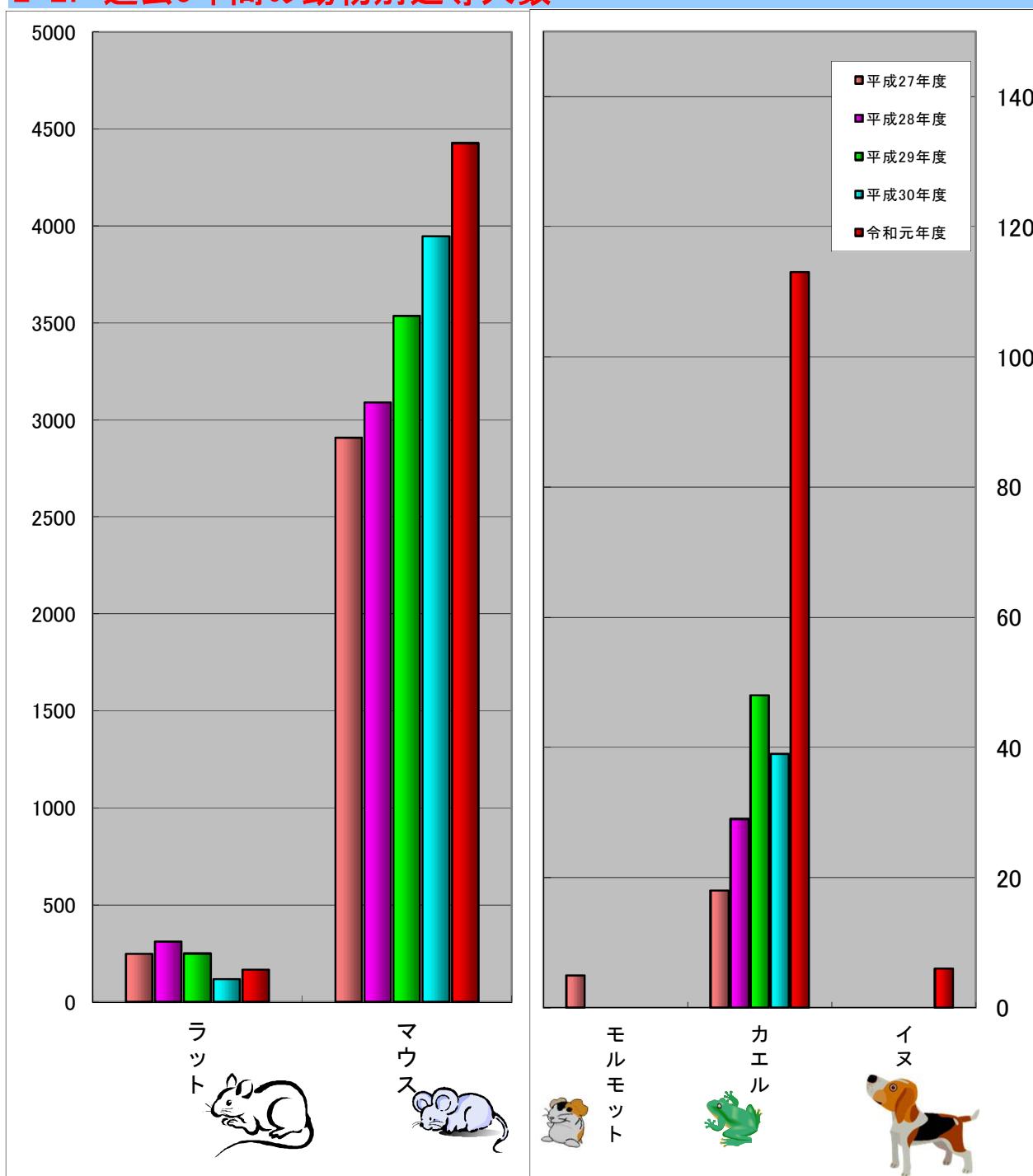


2. 平成31年・令和元年度 動物導入数

2-1. 動物・月別導入数(SPF含む)

動物名	月	月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ラット	ト	26	6	11	27	7	26	10	15	6	15	9	7	165
マウス	ス	423	335	228	506	508	405	256	321	292	422	395	336	4,427
カエル	ル	23	8		31	15	16	20						113
イヌ	ヌ			1		2		3						6
合計		476	354	245	571	538	456	296	347	310	438	406	346	4,711

2-2. 過去5年間の動物別延導入数



2-3. 分野別・月別動物延導入数(SPFを含む)

1) ラット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学				16			4			6			26
歯周病学				3	4	4	8	4		4		3	30
口腔インプラント学						16		13					29
口腔外科学												3	3
細胞生理学	19			3						15		0	37
分子機能制御学	7	6	4	4	3	2	2	2	2			4	36
アニマルセンター			4										4
合計	26	6	11	27	7	26	10	15	6	15	9	7	165

2) マウス

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯周病学		6	4	4	12	4		4	4	10	4	8	60
冠橋義歯学	24	36	24			43		31		39		19	216
有床義歯学			5	6	27	5	8	10	10				71
成育小児歯科学	2	4	2		6	1							15
矯正歯科学	7				38								45
口腔外科学												206	206
感染生物学	208	202	124	421	302	186	198	215	235	235	283		2,609
機能構造学	1		4	6		83		3	7		5	3	112
病態構造学						25				21	31	5	82
細胞生理学	48	35	33	49	107	58	40	58	31	113	69	95	736
分子機能制御学	133	52	20	20	16				5	4	3		253
障害者歯科学							10						10
アニマルセンター			12										12
合計	423	335	228	506	508	405	256	321	292	422	395	336	4,427

3)カエル

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生 化 学					15	16	20						51
細胞生理学	23	8		31									62
合 計	23	8	0	31	15	16	20	0	0	0	0	0	113

4)イヌ

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔インプラント学			1		2		3						6
合 計	0	0	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	6

3. 平成31年・令和元年度 動物延飼育数

3-1. 飼育レベル区域別・分野別・月別延飼育数

1. コンヘンショナル

1) ラット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学	349	239	150	184	403	102	60	120	124	124	212	97	2,164
歯周病学			18	67	44	75	84		52		45		385
口腔インプラント学					224	398	480	682	521	320	229		2,854
細胞生理学	491	497	407	255	97	60	62	56	31	301	304		2,561
分子機能制御学	220	137	162	109	40	8	10	8	9		4		707
アニマルセンター	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	46	31	689
合計	1,120	935	797	677	646	529	676	724	960	1,008	927	361	9,360

2) マウス

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯周病学										823			823
冠橋義齒学	4,205	4,415	4,155	4,369	4,073	3,726	3,845	2,744	3,534	3,721	2,889	2,345	44,021
有床義齒学	132	16	10	86	318	5	180	144	74				965
成育小児歯科学	17	24	29		12	38	8						128
矯正歯科学	753				988	1,140	1,178	1,140	1,120	1,116	1,044	1,102	9,581
感染生物学	90	93	90	93	93	90	93	78				93	813
病態構造学	480	496	384	396	372	698	868		782	805	1,327	1,715	8,323
細胞生理学		91	309	307	196	128	133	60	62	269	278	521	2,354
分子機能制御学	908	495			64				20	4	3		1,494
障害者歯科学		831	630	341	310	300	350	600	620	596	348	363	5,289
アニマルセンター	90	93	108	124	124	120	124	120	124	124	79	31	1,261
合計	6,675	6,554	5,715	5,716	6,550	6,245	6,779	4,886	7,159	6,635	5,968	6,170	75,052

3) ヌードマウス

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
冠橋義齒学										175	63		238
病態構造学						168	152						320
合計	0	0	0	0	0	168	152	0	0	175	63	0	558

4) カエル

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生化学					268	416	601	504	149				1,938
合計	0	0	0	0	268	416	601	504	149	0	0	0	1,938

5) イヌ

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔インプラント学				31	39	90	177	180	186	186	174	186	1,249
合 计	0	0	0	31	39	90	177	180	186	186	174	186	1,249

2. SPF室

1) マウス

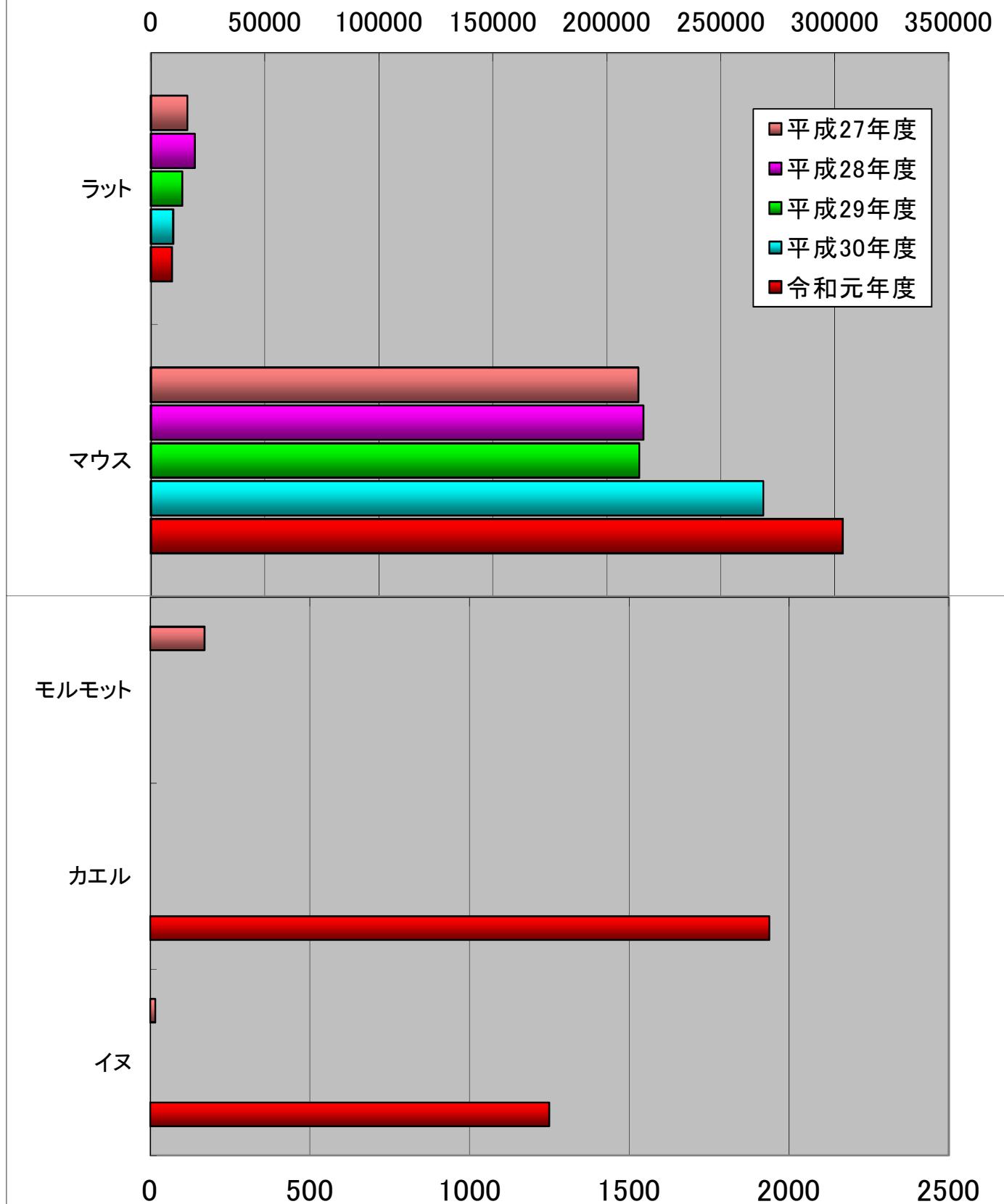
分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯周病学	960	1,064	1,117	1,149	1,268	1,300	804	826		793	781	908	10,970
感染生物学	6,619	9,192	8,984	9,105	10,679	10,628	12,786	13,830	12,814	12,101	11,506	15,572	133,816
機能構造型	472	406	407	447	477	1,368	1,118	467	566	604	470	466	7,268
細胞生理学	4,218	3,976	3,202	3,472	4,190	5,070	5,207	5,170	4,106	4,334	4,420	4,476	51,841
合 计	12,269	14,638	13,710	14,173	16,614	18,366	19,915	20,293	17,486	17,832	17,177	21,422	203,895

3. 感染室

1) 感染室マウス

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
感染生物学	1,897	1,491	1,613	2,042	1,901	2,828	2,008	1,312	2,782	2,102	2,323	1,774	24,073
合 计	1,897	1,491	1,613	2,042	1,901	2,828	2,008	1,312	2,782	2,102	2,323	1,774	24,073

3-2. 過去5年間の動物別延飼育数



3-3. アニマルセンターで飼育した動物の系統

動物種	系統				
ラット	SD	Wistar			
マウス	ddY C57BL/6-Tg	BIOBR ICR	BALB/c R26R	BALB/c-nu B6N-TgN	B6N.FVB-Tg C3H/HeJ
カエル	ウシガエル	トノサマガエル			
イヌ	ビーグル				

3-4. 分野別・月別動物使用数(SPFを含む)

1) ラット

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学	12	4		5	6	10			4		5	4	50
歯周病学				7	4	4	8				3		26
口腔インプラント学							4	3		9	4		20
口腔外科学												6	6
細胞生理学	2	2	9		7			1			16		37
分子機能制御学	8	8	3	8	4	2	2	2	2				39
アニマルセンター			4								1		5
合計	22	14	16	20	21	16	14	6	6	9	29	10	183

2) マウス

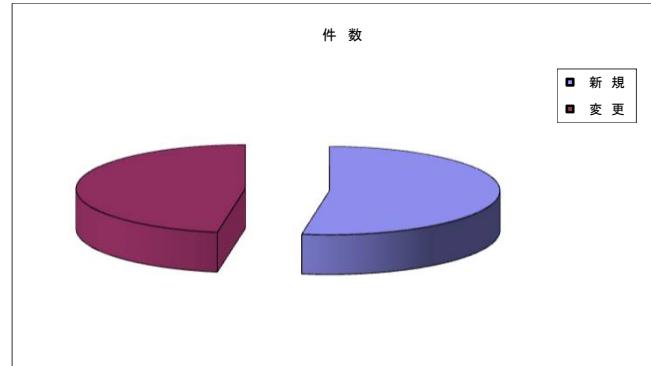
分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学									7				7
歯周病学		2	3	5		26	1			7	7	14	65
冠橋義歯学	23	24	38	2	32	4	58	5		33	48	9	276
有床義歯学	3	2	5	4	29	5	8	10	12				78
成育小児歯科学	1	4	3		15	1	1						25
矯正歯科学									2			2	4
感染生物学	117	187	183	420	241	250	125	342	268	230	299	222	2,884
機能構造学		5	1	5	3	4	81	3	2	5	3	3	115
病態構造学			4	4		1	8		3	11		37	68
細胞生理学	66	45	44	26	109	75	29	89	26	93	80	31	713
分子機能制御学	129	84	20	20	16				5	4	3		281
障害者歯科学		9		10	1				20	8		1	49
アニマルセンター			11								3		14
合計	339	362	312	496	446	366	311	449	345	391	443	319	4,579

3) カエル

分野名／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
細胞生理学	23	8		31									62
分子機能制御学									17				17
生化学					1	19	3		11				34
合計	23	8	0	31	1	19	3	17	11	0	0	0	113

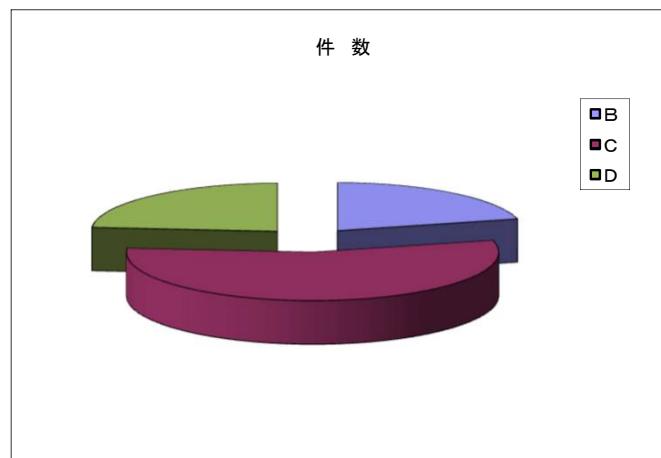
平成31年・令和元年度 動物実験計画審査件数

実験審査		件 数
内 訳	新規	20
	変更	18
実験審査総数		38
実験承認件数		38
実験中止件数		1

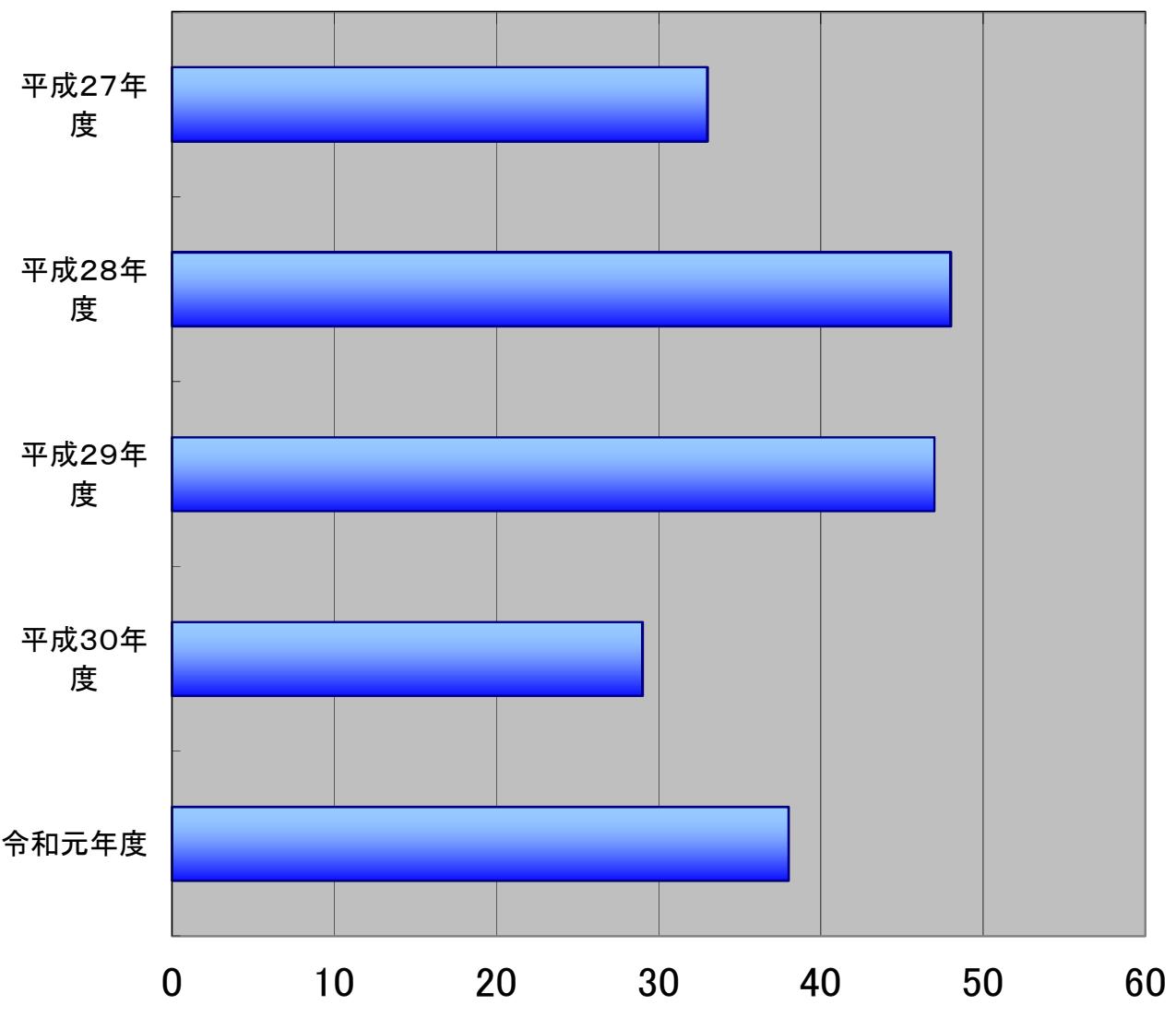


(内訳)倫理基準によるカテゴリー分類別

分 類	件 数
B	8
C	21
D	9
合 計	38



過去5年間の動物実験承認件数



平成31年・令和元年度使用者講習会

1. 臨時使用者講習会（新規対象者）

日 時：平成31年4月23日（火）

場 所：歯科保存学分野医局

受講者数：5名

2. 第1回使用者講習会（更新対象者）

日 時：令和元年5月22日（水）

場 所：502講義室

受講者数：17名

3. 第2回使用者講習会（新規対象者）

日 時：令和元年5月22日（水）

場 所：502講義室

受講者数：8名

4. 第3回使用者講習会（更新対象者）

日 時：令和元年6月5日（水）

場 所：歯科保存学分野医局

受講者数：7名

5. 第4回使用者講習会（新規・更新対象者）

日 時：令和元年7月12日（金）

場 所：歯科保存学分野医局

受講者数：2名

6. 第5回使用者講習会（新規対象者）

日 時：令和元年10月4日（金）

場 所：アニマルセンター

受講者数：1名

7. 第6回使用者講習会（新規対象者）

日 時：令和2年2月17日（月）

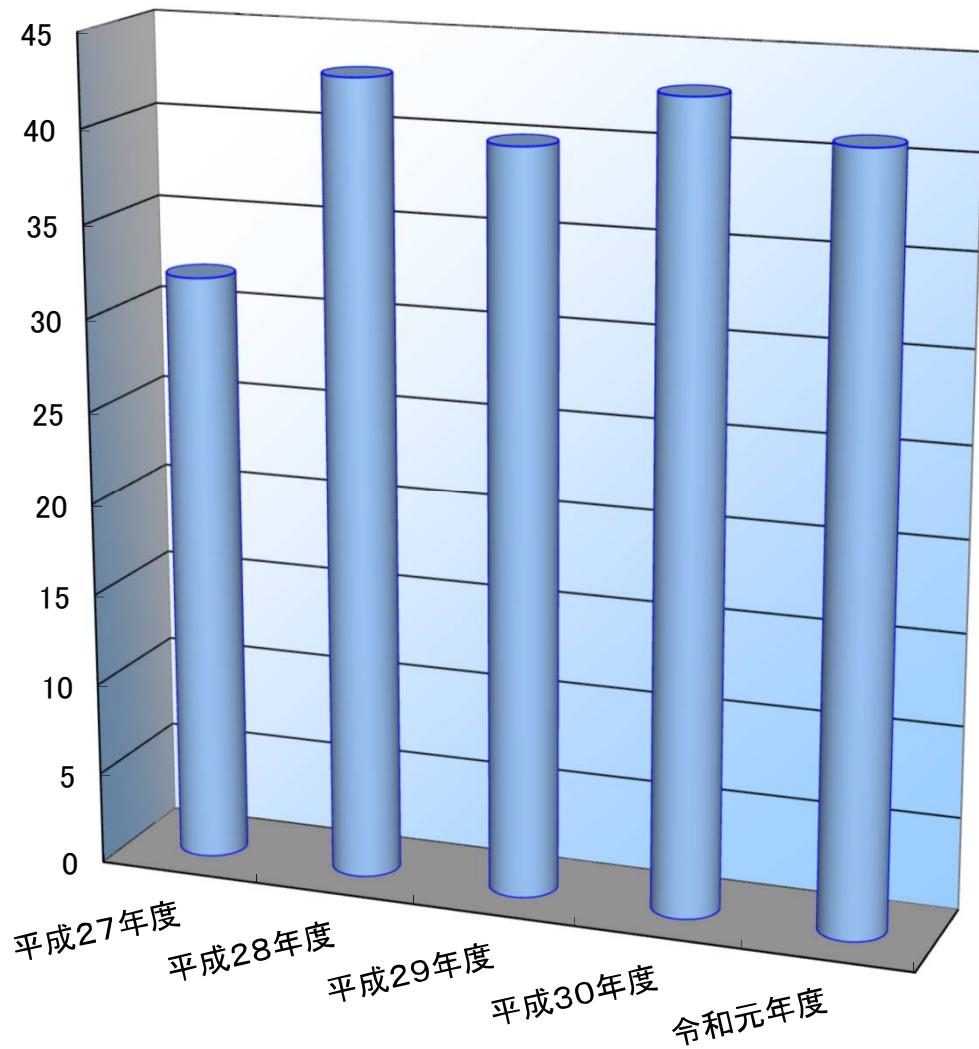
場 所：アニマルセンター

受講者数：1名

受講者名簿

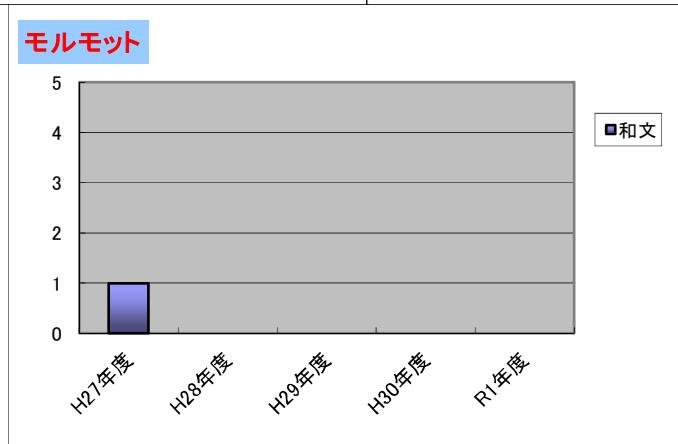
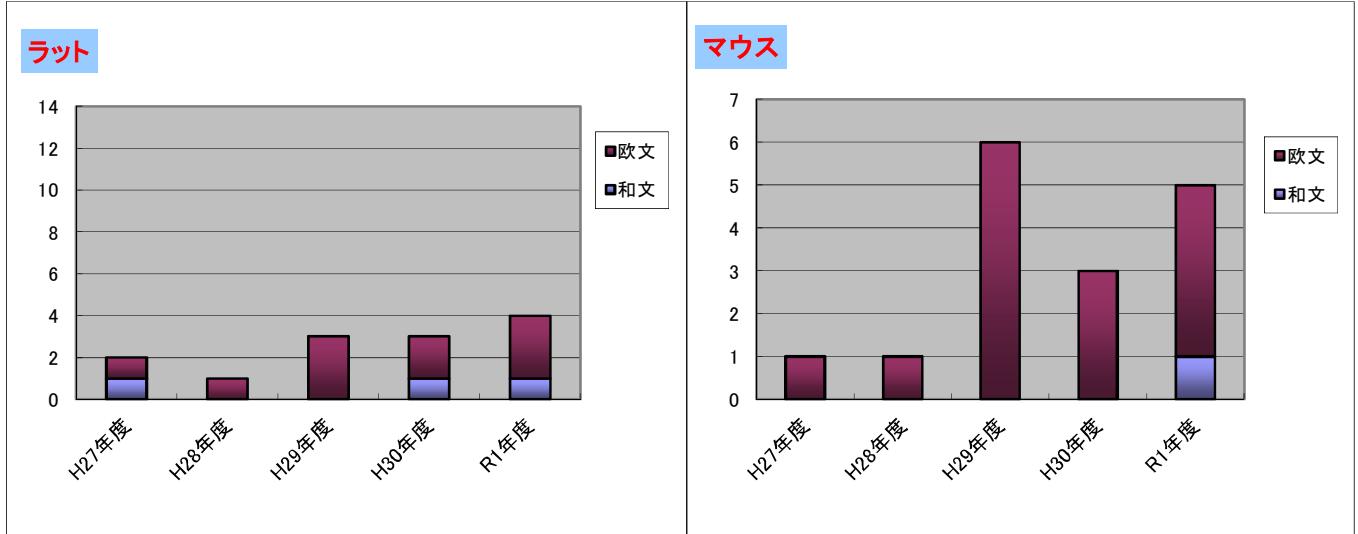
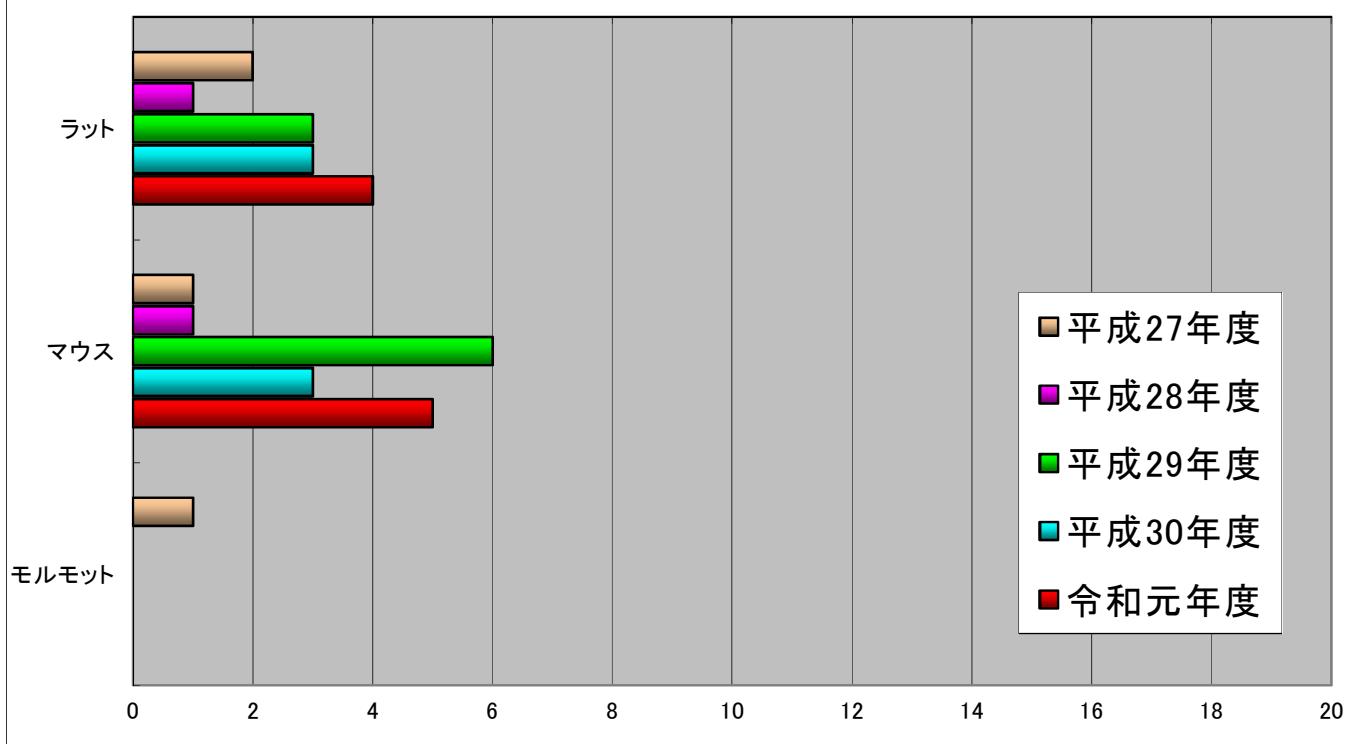
No.	受講者名	所属名(分野名)	講習会名
1	森田 浩光	総合歯科学	臨時使用者講習会(新規対象者)
2	河村 隼	歯科保存学	
3	松雪 稔	歯科保存学	
4	高瀬 稔	歯周病学	
5	伊藤 祥子	感染生物学	以上5名
6	山本 南奈	歯周病学	第1回使用者講習会(更新対象者)
7	山下 潤朗	再生医学研究センター	
8	橋本 修一	病態構造学	
9	松本 典祥	歯科保存学	
10	八田 光世	分子機能制御学	
11	加倉 加恵	口腔インプラント学	
12	谷口 裕介	口腔インプラント学	
13	成田 由香	感染生物学	
14	吉田 兼義	有床義歯学	
15	瀬尾 皓	冠橋義歯学	
16	山口 雄一郎	冠橋義歯学	
17	稻井 指一朗	機能構造学	
18	岡部 幸司	細胞生理学	
19	利光 拓也	障害者歯科学	
20	水上 正彦	歯科保存学	
21	田中 芳彦	感染生物学	
22	Vansana Phanthavong	口腔インプラント学	以上17名
23	田 平和久	成育小児歯科学	第2回使用者講習会(新規対象者)
24	山本 繁	総合歯科学	
25	吉田 端姫	高齢者歯科学	
26	池本 梨央南	感染生物学	
27	中村 麻衣	感染生物学	
28	梁 尚陽	感染生物学	
29	堀江 崇士	有床義歯学	
30	紫口 塙	冠橋義歯学	以上8名
31	永井 淳	地域連携センター	第3回使用者講習会(更新対象者)
32	坂上 竜資	歯周病学	
33	吉永 泰周	歯周病学	
34	河原 洋	歯周病学	
35	有田 陽一	歯周病学	
36	安永 まどか	矯正歯科	
37	大多和 奈央子	矯正歯科	以上7名
38	城戸 寛史	口腔インプラント学	第4回使用者講習会(更新対象者)
39	松嶋 彩	細胞生理学	(新規対象者) 以上2名
40	長岡 良礼	分子機能制御学	第5回使用者講習会(新規対象者) 以上1名
41	松本 和磨	歯科保存学	第6回使用者講習会(新規対象者) 以上1名

過去5年間の使用者講習会の受講者数

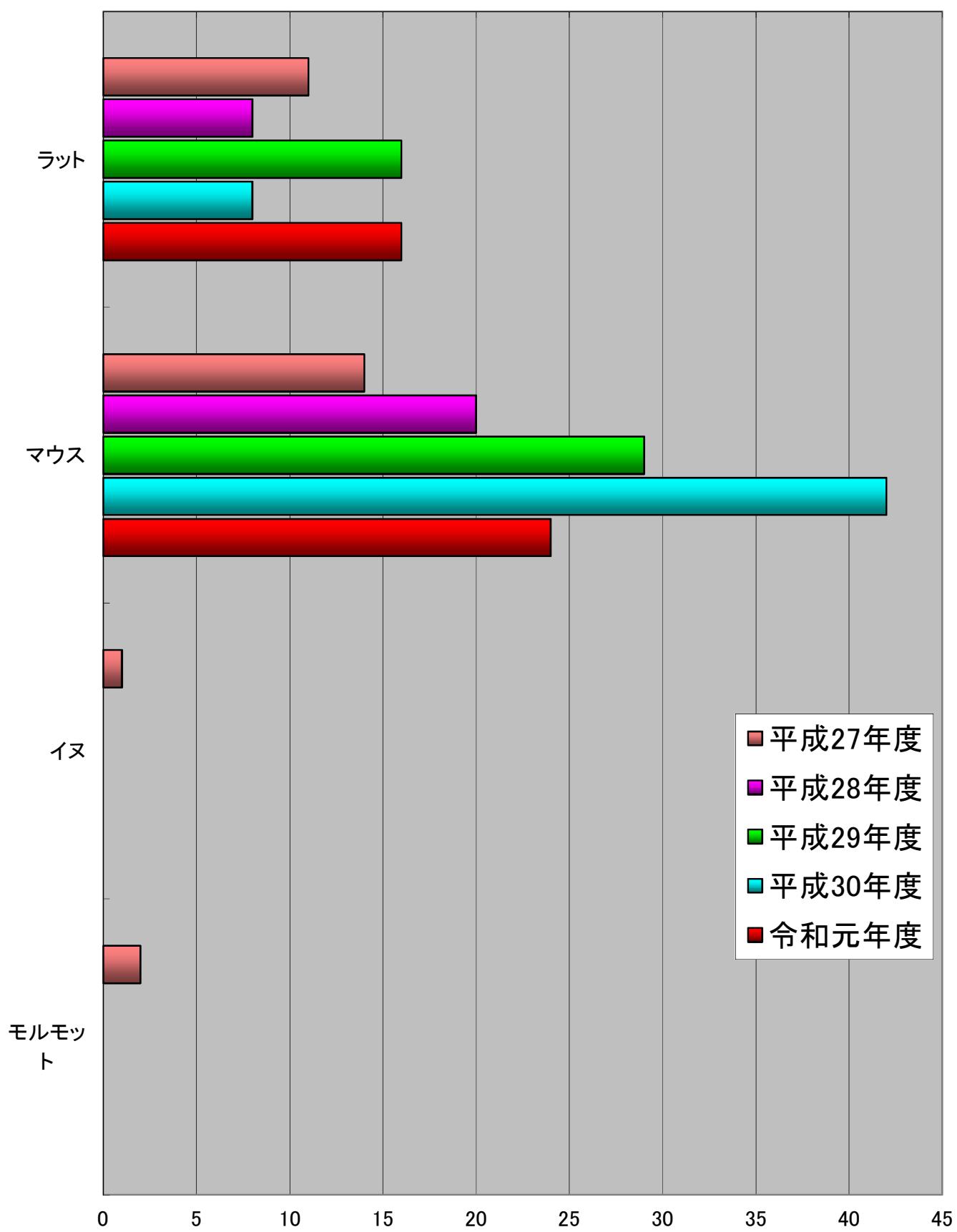


動物を使用した過去5年間の年度別研究業績

発表論文



学会発表



令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）

動物を使用した研究業績

発表論文

ラット

- 1) Induction of bone repair in rat calvarial defects using a combination of hydroxyapatite with phosphatidylserine liposomes.
Hatakeyama J, Anan H, Hatakeyama Y, Matsumoto N, Takayama F, Wu Z, Matsuzaki E, Minakami M, Izumi T, Nakanishi H.
J Oral Sci. 61(1): 111-118, 2019.
- 2) Enhanced junctional epithelial permeability in TRPV4-deficient mice.
Kitsuki T, Yoshimoto RU, Aijima R, Hatakeyama J, Cao AL, Zhang JQ, Ohsaki Y, Mori Y, Kido MA.
Journal of Periodontal Research, 55(1): 51-60, 2019.
- 3) Three-dimensional spheroids of mesenchymal stem/stromal cells promote osteogenesis by activating stemness and Wnt/ β -catenin
Imamura A, Kajiya H, Fujisaki S, Maeshiba M, Yanagi T, Kojima H, Ohno J
Biochem Biophys Res Commun. 2020, 523(2):458-464
- 4) 歯内療法における新規歯槽骨再生療法の可能性, 日本歯内療法
松崎英津子, 阿南 壽.
学会雑誌, 41(1): 2-7, 2020.

マウス

- 1) Intermittent Administration of Parathyroid Hormone and Fracture Healing: A Narrative Review of Animal and Human Studies
Yamashita J*, McCauley LK
JBMR Plus, 2019, 3(12) e10250
- 2) Alternating Differentiation and Dedifferentiation between Mature Osteoblasts and Osteocytes
Sawa N, Fujimoto H, Sawa Y, Yamashita J*
Scientific Reports, 2019, 25;9(1) 13842
- 3) Bacterial-induced maternal interleukin-17A pathway promotes autistic-like behaviors in mouse offspring
Yasumatsu K, Nagao J, Arita-Morioka K, Narita Y, Tasaki S, Toyoda K, Ito S, Kido H, Tanaka Y
Experimental Animals. 2020, 69(2):250-260
- 4) Three-dimensional spheroids of mesenchymal stem/stromal cells promote osteogenesis by activating stemness and Wnt/ β -catenin
Ayaka Imamura , Hiroshi Kajiya , Seiichi Fujisaki , Munehisa Maeshiba , Tsukasa Yanagi , Hiroshi Kojima , Jun Ohno
Received 3 December 2019, Accepted 15 December 2019, Available online 24 December 2019.
- 5) 歯内療法における新規歯槽骨再生療法の可能性。
松崎英津子, 阿南 壽.
日本歯内療法学会雑誌, 41(1): 2-7, 2020.

学会発表

ラット

- 1) Effect of DNA/Protamine complex in peri implant bone defects.
K. Kakura., T. Yanagi., Y. Taniguchi., H. Kido
American academy of esthetic dentistry, Canada 2019. 8. 8-10
- 2) S1P/S1PR2 signaling pathway promotes bone formation on rat apicoectomy model.
Matsuzaki E, Matsumoto N, Minakami M, Matsuyuki R, Matsumoto K, Hatakeyama J, Takahashi-Yanaga F, Anan H.
第93回日本薬理学会年会ポスター, 2020年3月16-18日. (Web)
- 3) 脱分化脂肪細胞を使用した下顎骨再生法への適応性
藤崎誠一, 鍛治屋 浩, 今村 彩香, 柳 束, 城戸 寛史, 大野 純
第18回日本再生医療学会総会(神戸) 2019. 3. 22
- 4) 歯周病原細菌によるIL-1 β の活性化に対するスルホニル尿素薬の影響.
河原ゆり, 金子高士, 吉永泰周, 有田陽一, 笠 孝成, 中村恵子, 古賀千尋, 吉村篤利, 坂上竜資
第62回春季日本歯周病学会, 2019年 5月 23-25日. (横浜市)
- 5) 骨形成の活性化に及ぼすスフィンゴシン-1-リン酸シグナル伝達経路の関与の解明.
松崎英津子, 阿南 壽.
日本歯内療法学会学術大会(第40回)口演, 2019年6月15-16日. (東京都)
- 6) 骨分化シグナルを標的とした新規歯槽骨再生療法の開発.
阿南 壽.
日本歯科保存学会2019年度春季学術大会 (第150回) シンポジウム, 2019年6月27-28日. (金沢市)
- 7) 脱分化脂肪細胞を使用した下顎骨体部欠損における再生療法の有用性
藤崎誠一, 柳束, 加倉加恵, 松本彩子, 佐藤絢子, 豊田馨大, 大野純, 城戸寛史
第49回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会(福岡) 2019. 9. 22
- 8) 2つの脂肪組織由来の幹細胞の移植による下顎骨再生療法の検討
藤崎誠一, 柳束, 加倉加恵, 佐藤絢子, 松本彩子, 豊田馨大, 大野純, 城戸寛史
2019. 9. 日本口腔インプラント学会学術大会
- 9) 脱分化脂肪細胞(DFAT)スフェロイドの有用性と骨再生療法への応用
柳束, 藤崎誠一, 安松香奈江, 豊田馨大, 加倉加恵, 大野純, 城戸寛史
第49回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会(福岡) 2019. 9. 22
- 10) DNAスキヤフォールドと骨再生
松本彩子, 柳束, 佐藤絢子, 藤崎 誠一, 大野純, 城戸寛史
第49回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会(福岡) 2019. 9. 22
- 11) 機械刺激センサーTRPV4を介した象牙芽細胞様細胞の石灰化.
畠山純子, 米田雅裕, 廣藤卓雄.
第12回日本総合歯科学会総会・学術大会ポスター, 2019年11月2-3日. (札幌市)
- 12) アメロゲニンと生体活性ガラスを併用した骨組織再生療法の開発.
松本典祥, 松崎英津子, 畠山純子, 牛尾悟志, 松本和磨, 松雪 稲, 小嶺文薈, 二階堂美咲, 水上正彦, 泉 利雄, 阿南 壽.
日本歯科保存学会2019年度秋季学術大会 (第151回) ポスター, 2019年11月7-8日. (福岡市)
- 13) S1PR2作動薬による骨再生メカニズムの解明.
松崎英津子, 松本典祥, 水上正彦, 畠山純子, 松雪 稲, 高橋富美, 平田雅人, 阿南 壽.
第40回日本臨床薬理学会学術総会ポスター, 2019年12月4-6日. (東京都)
- 14) マクロファージ枯渇と骨創傷治癒不全
平野雅裕, 山下潤朗
日本補綴歯科学会第128回学術大会, 2019, 札幌

- 15) マウス骨髓炎モデルの樹立と骨髓炎治療・予防法の確立
宮園祥爾, 山下潤朗
日本補綴歯科学会第128回学術大会, 2019, 札幌
- 16) 腫瘍性疾患治療に有効な血管新生抑制剤サリドマイドと口腔粘膜骨創傷治癒
藤本啓貴, 山下潤朗
日本補綴歯科学会第128回学術大会, 2019, 札幌

マウス

- 1) Exploration of the major T-cell antigen in oral candidiasis.
Sonoko Tasaki, Tamaki Cho, Jun-ichi Nagao, Ken-ichi Arita-Morioka, Yuka Narita, Kanae Yasumatsu, Yoshihiko Tanaka.
The 48th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology 2019.12.11-13
- 2) Investigation of pathological mechanism of periodontal disease via T-cell mediated immune response.
Jun-ichi Nagao, Yuka Narita, Ken-ichi Arita-Morioka, Kanae Yasumatsu, Sonoko Tasaki, Tamaki Cho, Yoshihiko Tanaka.
The 48th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology 2019.12.11-13
- 3) Chanzyme TRPM7 in bone formation and tooth development
Masashi Shin
第42回日本分子生物学会年会サテライトシンポジウム
「Cutting Edge of Bone and Mineral Research in 2019」（福岡）
- 4) 咬合不正における認知機能と咬合力の関連性に関する研究
前芝宗尚、堤貴司、都築尊、高橋裕
第30回日本老年歯科医学会@仙台国際センター6月6日（東北大学）にてポスター発表
- 5) 細菌感染による母体環境変化が引き起こす仔マウスの行動異常について
安松香奈江, 田中芳彦, 城戸寛史
第49回日本口腔インプラント学会学術大会（福岡）2019.9.20-22
- 6) Th17細胞を介して口腔カンジダ症を抑制する *Candida albicans* 表層抗原の探索
田崎園子、長環、永尾潤一、池崎晶二郎、成田由香、有田(森岡)健一、安松香奈江、小島寛、田中芳彦。
(ポスター発表) 『第63回日本医真菌学会総会・学術集会』 千葉市, 10月11日-10月12日 (12日), 2019.
- 7) 咬合不正による認知機能の低下作用
前芝 宗尚、鍛治屋 浩、堤 貴司、後藤加寿子、大野 純
第61回歯科基礎医学会@東京歯科大学10月12日（東北大学）にてポスター発表
- 8) チャネルキナーゼTRPM7の骨格形成における発現と軟骨形成制御
進正史、森志穂美、溝口利英、岡本富士雄、鍛治屋浩、荒井敦、宇田川信之、岡部幸司
第37回日本骨代謝学会学術集会, 2019年10月12-14日 (神戸)
- 9) 母体の病原性細菌感染が仔の行動異常に与える影響について
安松香奈江, 永尾潤一, 成田由香, 有田(森岡)健一, 長環, 城戸寛史, 田中芳彦
(ポスター発表) 『第61回歯科基礎医学会学術大会・総会』 東京, 10月12-14日 (12日), 2019.
- 10) 歯周病の病態形成におけるプロバイオティクスの機能
梁 尚陽、永尾潤一、成田由香、有田(森岡)健一、安松香奈江、田崎園子、長環、田中芳彦。
(ポスター発表) 『第61回歯科基礎医学会学術大会・総会』 東京, 10月12-14日 (12日), 2019.
- 11) バイオフィルム形成阻害に着目した新しい齲蝕予防法の開発
有田(森岡)健一, 永尾潤一, 成田由香, 安松香奈江, 田崎園子, 長環, 田中芳彦
第61回歯科基礎医学会（東京）2019.10.12-14
- 12) 宿主免疫応答による歯周病の病態形成機構の解明
永尾潤一, 成田由香, 有田(森岡)健一, 安松香奈江, 田崎園子, 長環, 田中芳彦
(ポスター発表) 『第61回歯科基礎医学会学術大会・総会』 東京, 10月12-14日 (13日), 2019.

- 1 3)** 歯周炎を誘発するT細胞抗原エピトープの同定
成田由香, 永尾潤一, 有田(森岡)健一, 田崎園子, 安松香奈江, 長環, 田中芳彦
(ポスター発表) 『第61回歯科基礎医学学会学術大会・総会』 東京, 10月12-14日(14日), 2019.
- 1 4)** 口腔カンジダ症を制御するTh17細胞応答を誘導するT細胞抗原探索
田崎園子, 長環, 永尾潤一, 有田(森岡)健一, 成田由香, 安松香奈江, 小島寛, 田中芳彦
第61回歯科基礎医学学会(東京) 2019.10.12-14
- 1 5)** 胎児脳システム発達に関わる母体免疫活性化の重要性について
安松香奈江, 城戸寛史, 田中芳彦
(ポスター発表) 『第62回秋季日本歯周病学会学術大会』 北九州市, 10月25-26日(25日), 2019.
- 1 6)** *Candida albicans*に対してTh17細胞応答を誘導する表層抗原の探索
田崎園子、長環、小島寛、田中芳彦
(ポスター発表) 『第36回日本障害者歯科学会総会・学術集会』 岐阜市, 11月22日-11月24日(23日), 2019.
- 1 7)** プロバイオティクスが歯周病の病態に及ぼす影響の解析
梁尚陽, 永尾潤一, 田中芳彦.
(ポスター発表) 『第46回福岡歯科大学学会総会』 福岡, 12月15日, 2019.
- 1 8)** 妊娠期の細菌感染による免疫活性化は仔の自閉症様行動異常を誘導する
安松香奈江, 永尾潤一, 成田由香, 有田(森岡)健一, 城戸寛史, 田中芳彦
(口演) 第46回福岡歯科大学学会総会(福岡) 2019.12.15
- 1 9)** マクロファージ枯渴と骨創傷治癒不全
平野雅裕, 山下潤朗
日本補綴歯科学会第128回学術大会, 2019, 札幌
- 2 0)** マウス骨髄炎モデルの樹立と骨髄炎治療・予防法の確立
宮園祥爾, 山下潤朗
日本補綴歯科学会第128回学術大会, 2019, 札幌
- 2 1)** 腫瘍性疾患治療に有効な血管新生抑制剤サリドマイドと口腔粘膜骨創傷治癒
藤本啓貴, 山下潤朗
日本補綴歯科学会第128回学術大会, 2019, 札幌
- 2 2)** 非MMR欠損大腸癌モデルにおいてFOLFIRI療法によるT細胞依存性抗腫瘍効果発揮に抗PD-1抗体療法は必須である
岡野慎士, 沖英次, 佐伯浩司, 吉本尚平, 工藤健介, 木村光一, 小田義直, 森正樹, 前原喜彦, 池田哲夫.
・第108回日本病理学会総会. 東京国際フォーラム, 東京: オーラル, 2019年5月10日(金)
・第74回日本消化器外科学会総会.
グランドプリンスホテル新高輪, 東京: デジタルポスター, 2019年7月18日(木)
- 2 3)** 非MMR欠損大腸癌モデルにおいてFOLFIRI療法によるT細胞依存性抗腫瘍効果発揮に抗PD-1抗体療法は必須である
岡野慎士, 沖英次, 小田義直, 森正樹, 前原喜彦, 池田哲夫.
第24回日本外科病理学会総会. ホテルマイステイズ宇都宮, 宇都宮: シンポジウム, 2019年10月11日(金).
- 2 4)** マウスエナメル芽細胞のタイムラプスイメージング解析
進正史、松嶋彩、森志穂美、岡本富士雄、鍛治屋浩、原田英光、ジョンDバートレット、岡部幸司
第97回日本生理学会大会(誌上開催)

令和元年度に取得された学位

1. 甲第310号 安松 香奈江
Bacterial-induced maternal interleukin-17A pathway promotes autistic-like behaviors in mouse offspring
(マウス母体の細菌感染によるインターロイキン17A 経路が仔の自閉症様行動を引き起こす)
2. 甲第313号 有田 陽一
Glyburide inhibits the bone resorption induced by traumatic occlusion in rats
(グリブリドはラットの外傷性咬合による骨吸収を抑制する)
3. 甲第314号 松尾 聰
Cyclophosphamide Promotes Arrested Development of the Dental Root in Mice
(シクロホスファミドはマウス歯根の発達停止を促進する)
4. 甲第315号 宮園 祥爾
The reduced susceptibility of mouse keratinocytes to retinoic acid may be involved in the keratinization of oral and esophageal mucosal epithelium
(口腔および食道粘膜上皮の角質化へのレチノイン酸に対するマウスケラチノサイトの低下感受性の関与)
5. 甲第316号 笠 孝成
Porphyromonas gingivalis がヒト口腔粘膜上皮細胞に与える影響の3次元構築モデルによる解析
6. 甲第317号 今村 彩香
Three-dimensional spheroids of mesenchymal stem/stromal cells promote osteogenesis by activating stemness and Wnt/beta-catenin
(3D spheroidによる未分化とWnt/β-catenin活性化による 骨形成促進について)
7. 甲第318号 首藤 俊一
Cisplatin-induced programed cell death ligand-2 expression associates with metastasis ability in oral squamous cell carcinoma
(シスプラチン誘発性プログラム細胞死リガンド-2発現は口腔扁平上皮癌の転移能と関連する)
8. 甲第319号 河原 ゆり
Effects of sulfonylureas on periodontopathic bacteria-induced inflammation
(歯周病原細菌によって誘導された炎症に対するスルホニル尿素薬の影響)

アニマルセンタ一年表(平成31年・令和元年度)

4月	12日	第1回動物実験委員会 新規 審査番号19001
	19日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号18014・17001
	23日	臨時使用者講習会(新規対象者)
5月	7日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19001
	22日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号19002 第166回管理運営委員会 ネズミ大腸蟻虫対応策を検討 第1回使用者会議 第1回使用者講習会(更新対象者) 第2回使用者講習会(新規対象者)
	4日	ネズミ大腸蟻虫駆除剤入り飼料給餌開始
	5日	オートクレーブ保守点検 第3回使用者講習会(更新対象者)
	18日	第1回SPF使用者講習会 大学院生講義(実験動物の取扱い)
6月	20日	第2回SPF使用者講習会 第1回感染室使用者講習会 第2回動物実験委員会 新規 審査番号19003・19004・19005・19006・ 19007・19008
		動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号18002
	11日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号16009
	12日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19009 第4回使用者講習会(新規・更新対象者)
	19日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19010
7月	23日	微生物モニタリング検査(すべて陰性)
	31日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号17016・17026・17031
	5日	第3回SPF使用者講習会
	7日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19011・19012
	9日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19013
8月	16日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19016
	19日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号18008・18015
	2日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19017
	4日	第4回SPF使用者講習会
	27日	第167回管理運営委員会
9月	3日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19018
	4日	第5回使用者講習会(新規)
	10日	第44回実験動物慰靈祭 動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19019

11月	12日	オートクレーブ保守点検
	13日	オートクレーブ法定検査
12月	2日	外部検証訪問調査
	13日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19020
	23日	放射線量測定検査
	27日	業務納め
1月	6日	業務始め
	7日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号18009
	31日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号18006 第3回動物実験委員会 新規 審査番号19021 変更 審査番号18002
2月	17日	第6回使用者講習会(新規)
	18日	第4回動物実験委員会 変更 審査番号19016・18002 日本実験動物学会における動物実験に関する検証結果報告書(案)について 「福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学 動物実験規則」等の改正案 及び申請書様式(案)について
		第168回管理運営委員会
		微生物モニタリング検査(陰性)
	20日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号19022
	21日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号17033・17035・17036

会議録

動物実験委員会（平成31・令和元年度）

第1回会議 平成31年4月12日（金）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーD）について 19001

持ち回り決裁 平成31年4月19日（金）

〔議題〕 1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について 18014

2. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーD）について 17001

持ち回り決裁 令和元年5月7日（火）

〔議題〕 1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーD）について 19001

2. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 19002

持ち回り決裁 令和元年6月20日（木）

〔議題〕 1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーD）について 18002

第2回会議 令和元年6月20日（木）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーD）について 19003

2. 動物実験計画の審査（カテゴリーD）について 19004

3. 動物実験計画の審査（カテゴリーD）について 19005

4. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 19006

5. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について 19007

6. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 19008

持ち回り決裁 令和元年7月11日（木）

〔議題〕 1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について 16009

持ち回り決裁 令和元年7月12日（金）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 19009

持ち回り決裁 令和元年7月19日（金）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について 19010

持ち回り決裁 令和元年7月31日（水）

〔議題〕 1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について 17016

2. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について 17026

3. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について 17031

持ち回り決裁	令和元年 8月 7日 (水)	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	19011
	2. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について	19012
持ち回り決裁	令和元年 8月 9日 (金)	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	19013
持ち回り決裁	令和元年 8月 16日 (金)	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	19016
持ち回り決裁	令和元年 8月 19日 (月)	
〔議題〕	1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について	18008
	2. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について	18015
持ち回り決裁	令和元年 9月 2日 (月)	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について	19017
持ち回り決裁	令和元年 10月 3日 (木)	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	19018
持ち回り決裁	令和元年 10月 10日 (木)	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	19019
持ち回り決裁	令和元年 12月 13日 (金)	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について	19020
持ち回り決裁	令和2年 1月 7日 (火)	
〔議題〕	1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーB）について	18009
第3回会議	令和2年 1月 31日 (金)	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	19021
	2. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーD）について	18002
持ち回り決裁	令和2年 1月 31日 (金)	
〔議題〕	1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について	18006
第4回会議	令和2年 2月 18日 (火)	
〔議題〕	1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について	19016
	2. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーD）について	18002
	3. 日本実験動物学会における動物実験に関する検証結果報告書(案)について	

4. 「福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学 動物実験規則」等の改正案及び
申請書様式(案)について

持ち回り決裁 令和2年2月20日(木)

[議題] 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について 19022

持ち回り決裁 令和2年2月21日(金)

[議題] 1. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーB）について 17033

2. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーC）について 17035

3. 動物実験計画変更承認の審査（カテゴリーD）について 17036

会議録

管理運営委員会（令和元年度）

第 166 回会議 令和元年 5 月 22 日（水）

- 〔議題〕
1. アニマルセンター関係委員会の委員及び職員の変更について
 2. 平成 30 年度予算の決算について
 3. 令和元年度予算の配当について
 4. 平成 31 年度第 1 回使用者会議の実施結果について
 5. 平成 30 年度使用者講習会の実施結果について
 6. 平成 30 年度 S P F 室使用者講習会の実施結果について
 7. 平成 30 年度感染室使用者講習会の実施結果について
 8. アニマルセンタ一年報(2018 年版)発行について
 9. 第 43 回実験動物慰靈祭の実施結果について
 10. 大学院講義の実施結果について
 11. 微生物モニタリング検査の実施結果について

第 167 回会議 令和元年 9 月 27 日（金）

- 〔議題〕
1. 微生物モニタリング検査結果の報告及びアニマルセンター 3 階 S P F 室－5 の飼育再開について

第 168 回会議 令和 2 年 2 月 18 日（火）

- 〔議題〕
1. 日本実験動物学会における動物実験に関する検証結果報告書(案)について
 2. 「福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学 動物実験規則」等の改正案及び申請書様式(案)について

会 議 錄

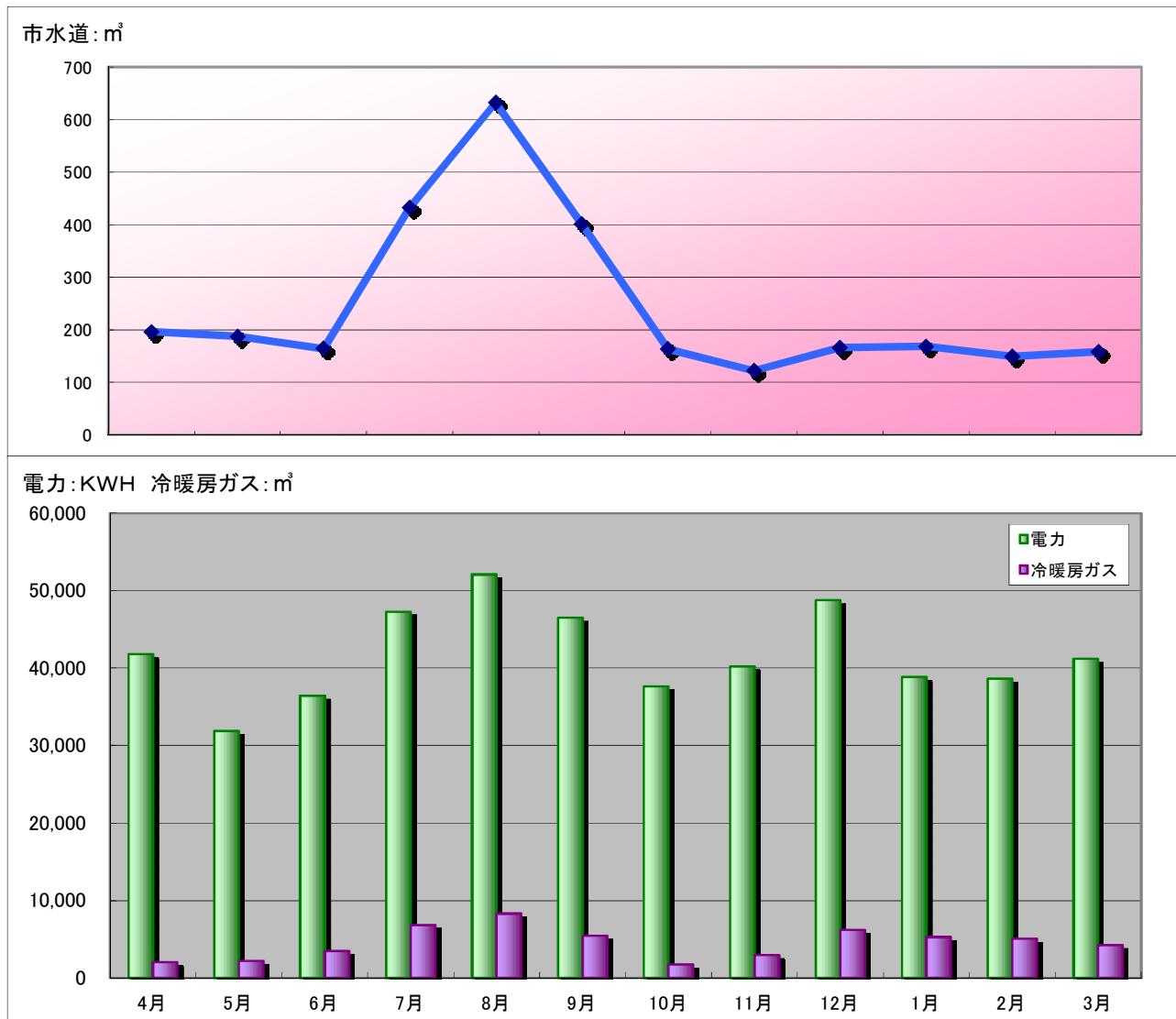
使用者会議（令和元年度）

第1回会議 令和元年 5月 22日（水）

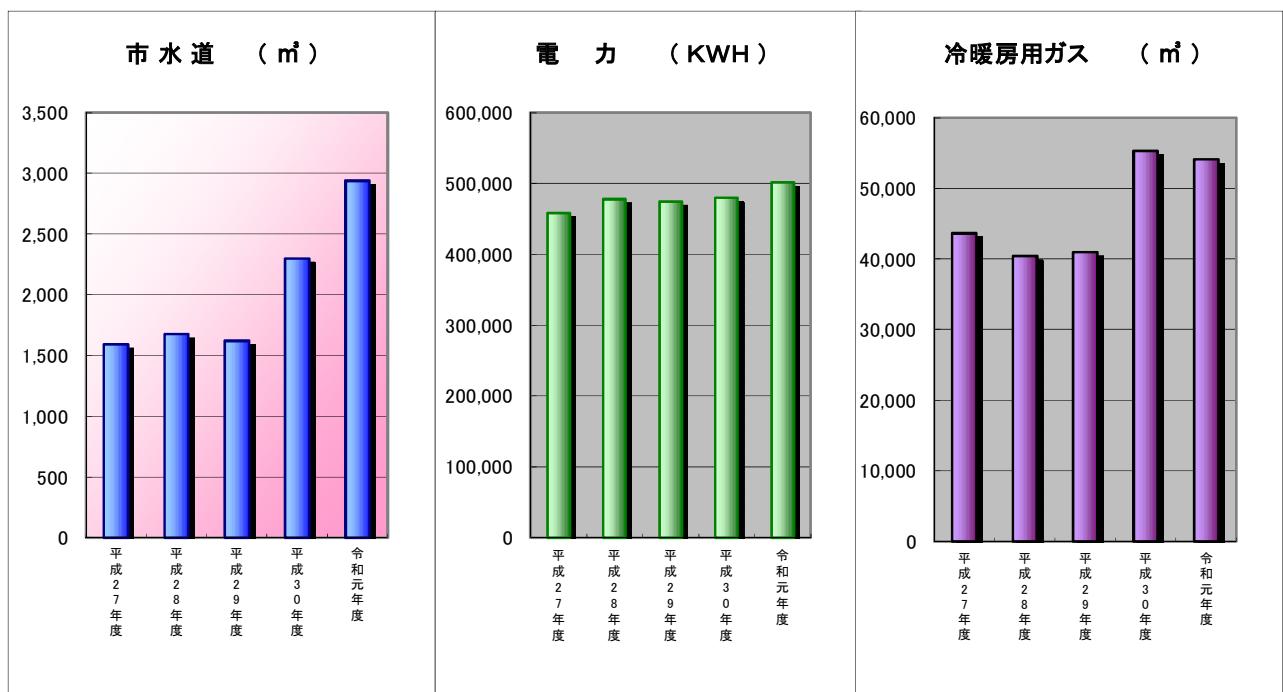
1. 令和元年度飼育単価・管理経費及び共益費等について
2. 令和元年度アニマルセンタ一年間行事予定について
3. 微生物モニタリング検査の実施結果について

その他 外部評価について

平成31年・令和元年度 月別光熱水使用量



過去5年間の光熱水使用量の推移



福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学動物実験規則

(目的)

第1条 この規則は、「動物の愛護及び管理に関する法律(昭和 48 年 10 月法律第 105 号)」(以下「法」という。)、指針等及びその他の動物実験等に関する法令等に基づき、動物実験等を適正に行うため、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の定義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 「動物実験等」とは、本条第 5 号に規定する実験動物を教育、学術研究又は生物学的材料採取、その他の科学上の利用に供することをいう。
- (2) 「飼養保管施設」とは、実験動物を恒常に飼養若しくは保管又は動物実験等を行う施設・設備のことをいう。
- (3) 「実験室」とは、実験操作(48 時間以内の一時的保管を含む。)を行う動物実験室のことをいう。
- (4) 「飼養保管施設等」とは、飼養保管施設及び実験室のことをいう。
- (5) 「実験動物」とは、動物実験等の利用に供するため飼養保管施設等で飼養又は保管している哺乳類、鳥類、爬虫類及び両生類に属する動物(飼養保管施設等に導入するために輸送中のものを含む。)のことをいう。
- (6) 「動物実験計画」とは、動物実験等を行うために事前に立案する計画のことをいう。
- (7) 「動物実験実施者」とは、動物実験等を実施する者をいう。
- (8) 「動物実験責任者」とは、動物実験実施者のうち、動物実験等の実施に関する業務を統括する者をいう。
- (9) 「管理者」とは、福岡歯科大学、福岡看護大学、福岡医療短期大学の学長(以下「歯科大学長等」という。)の命をうけ、実験動物及び飼養保管施設等を管理する者をいう。
- (10) 「実験動物管理者」とは、実験動物に関する知識及び経験を有し、管理者を補佐して実験動物の管理を担当する者をいう。
- (11) 「飼養者」とは、実験動物管理者又は動物実験実施者の下で、実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。
- (12) 「管理者等」とは、歯科大学長等、管理者、実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者をいう。
- (13) 「指針等」とは、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準(平成 18 年 4 月環境省告示 88 号)」、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針(平成 18 年 6 月文部科学省告示第 71 号)」、「動物の処分方法に関する指針(平成 7 年 7 月総理府告示第 40 号)」及び日本学術会議が策定した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン(平成 18 年 6 月)」をいう。

(適用範囲)

第3条 この規則は、福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学（以下「歯科大学等」という。）において実施される動物実験等に適用される。

2 動物実験責任者は、動物実験等の実施を歯科大学等以外の機関に委託等する場合、委託先においても、指針等に基づき、動物実験等が実施されていることを確認すること。

(歯科大学長等の責務)

第4条 歯科大学長等は、歯科大学等における適正な動物実験等の実施及び実験動物の飼養並びに保管に関する最終的な責任を有し、次の各号に掲げる責務を負う。

- (1) 飼養保管施設等の整備
 - (2) 動物実験計画の承認及び実施状況並びに結果の把握
 - (3) 前号の結果に基づく改善措置
 - (4) 飼養保管施設及び実験室の承認
 - (5) 動物実験等に係る安全管理
 - (6) 教育訓練の実施
 - (7) 自己点検・評価及び情報公開等の実施
 - (8) その他、動物実験等の適正な実施のために必要な措置
- 2 歯科大学長等は、歯科大学等における動物実験計画の審査、実施状況及び実施結果に関する助言、飼養保管施設及び実験室の調査、教育訓練、自己点検・評価、情報公開、その他動物実験等の適正な実施に関して報告又は助言を行う組織として、動物実験委員会（以下「委員会」という。）を置く。
- 3 委員会の組織、運営等に関しては、別に定める。

(動物実験計画の立案、審査、手続き)

第5条 歯科大学長等は、動物実験計画の申請があったとき、委員会の審査を経て、適正な動物実験計画について承認する。また、動物実験計画の実施状況及び結果について報告を受けると共に、必要に応じ動物実験等の実施の適正について、委員会に諮り改善措置を講ずるものとする。

(実験計画書の作成)

第6条 動物実験責任者は、動物実験等により取得されるデータの信頼性を確保する観点から、次の各号に掲げる事項を踏まえて動物実験計画を立案し、動物実験計画承認申請書を歯科大学長等に提出することとする。

- (1) 研究の目的、意義及び必要性
- (2) 代替法を考慮して実験動物を適切に利用すること。
- (3) 実験動物の使用数削減のため、動物実験等の目的に適した実験動物種の選定、動物実験成績の精度及び再現性を左右する実験動物の数、遺伝学的及び微生物学的品質並びに飼養条件を考慮すること。
- (4) 苦痛の軽減により動物実験を適切に行うこと。

(5) 苦痛度の高い動物実験等、例えば致死的な動物実験等を行う場合、動物実験を計画する段階で人道的エンドポイント（実験動物を激しい苦痛から解放するための実験を打ち切るタイミング）の設定を検討すること。

- 2 歯科大学長等は、動物実験等の開始前に動物実験責任者に動物実験計画書を提出させ、委員会の審査を経て、承認し又は却下すること。
- 3 動物実験責任者は、動物実験計画について、歯科大学長等の承認を得た後でなければ、動物実験等を行うことができない。

（実験操作）

第7条 動物実験実施者は、動物実験等の実施に当たって、法令及び指針等に則するとともに、特に以下の事項を遵守すること。

- (1) 適切に維持管理された飼養保管施設等において動物実験等を行うこと。
- (2) 動物実験計画書に記載された事項及び次に掲げる事項を遵守すること。
 - ①適切な麻酔薬、鎮痛薬等の利用
 - ②実験の終了の時期（人道的エンドポイントを含む）の配慮
 - ③適切な術後管理
 - ④適切な安楽死の選択
- (3) 安全管理に注意を払うべき実験（物理的、化学的に危険な材料、病原体、遺伝子組換え動物等を用いる実験）については、法令及び歯科大学等における関連する規程等に従うこと。
- (4) 物理的、化学的に危険な材料又は病原体等を扱う動物実験等について、安全のための適切な施設や設備を確保すること。
- (5) 実験実施に先立ち必要な実験手技等の習得に努めること。
- (6) 侵襲性の高い大規模な存命手術に当たっては、経験等を有する者の指導下で行うこと。

（年度終了後の報告）

第8条 動物実験責任者は、毎年度終了後（動物実験計画の最終年度を除く。）、動物実験実施状況報告書により、当該年度における使用動物数、動物実験等の進捗状況、成果等（以下「実施状況」という。）について歯科大学長等に報告しなければならない。

（動物実験終了後の報告）

第9条 動物実験責任者は、動物実験計画書に基づき、動物実験等を実施した後、動物実験結果報告書により、使用動物数、動物実験計画からの変更の有無及び成果等の動物実験計画の実施結果について、歯科大学長等に報告しなければならない。

（マニュアルの作成と周知）

第10条 管理者及び実験動物管理者は、飼養保管のマニュアルを定め、動物実験実施者及び飼養者に周知し遵守されること。

（実験動物の健康及び安全の保持）

第11条 実験動物管理者、動物実験実施者及び飼養者（以下「実験動物管理者等」と

いう。)は、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の保持に努めること。
(実験動物の導入)

第 12 条 管理者は、実験動物の導入に当たり、法令及び指針等に基づき適正に管理されている機関より導入すること。

2 実験動物管理者は、実験動物の導入に当たり、適切な検疫(書面検疫を含む)、隔離飼育等を行うこと。

3 実験動物管理者は、実験動物の飼養環境への順化・順応を図るための必要な措置を講じること。

(飼養及び保管の方法)

第 13 条 実験動物管理者等は、実験動物の生理、生態、習性等に応じて、適切な給餌及び給水、必要な健康の管理並びにその動物の種類、習性等を考慮した飼養又は保管を行うための環境の確保を行うこと。

(健康管理)

第 14 条 実験動物管理者等は、実験目的以外の傷害や疾病を予防するため、実験動物に必要な健康管理を行うこと。

2 実験動物管理者等は、実験目的以外の傷害や疾病にかかった場合、実験動物に適切な治療等を行うこと。

(異種又は複数動物の飼育)

第 15 条 実験動物管理者等は、異種又は複数の実験動物を同一施設内で飼養及び保管する場合、その組合せを考慮した収容を行うこと。

(記録管理の適正化及び報告)

第 16 条 管理者等は、実験動物の入手先、飼育履歴、病歴等に関する記録台帳を整備保存すること。

2 管理者等は、人に危害を加える等のおそれのある実験動物については、名札、脚環、マイクロチップ等の装着等の識別装置を技術的に可能な範囲で講じるように努めること。

3 管理者は、年度ごとに飼養又は保管した実験動物の種類と数等について、歯科大学長等に報告すること。

(譲渡等の際の情報提供)

第 17 条 管理者等は、実験動物の譲渡に当たり、その特性、飼養又は保管の方法、感染性疾病等に関する情報を提供すること。

(輸送)

第 18 条 管理者等は、実験動物の輸送に当たり、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の確保並びに人への危害防止に努めること。

(飼育保管施設の設置)

第 19 条 飼養保管施設を設置(変更を含む。)する場合は、歯科大学長等の承認を得るものとする。

2 歯科大学長等は、申請された飼養保管施設を委員会に調査させ、その報告又は助

言により、承認又は却下を行うものとする。

3 管理者は、歯科大学長等の承認を得た飼養保管施設でなければ、実験動物管理者等に、当該飼養保管施設での飼養若しくは保管又は動物実験等を行わせることができない。

(飼養保管施設の要件)

第 20 条 飼養保管施設は、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 適切な温度、湿度、換気、明るさ等を保つことができる構造等とすること。
- (2) 実験動物の種類や飼養又は保管する数等に応じた飼育設備を有すること。
- (3) 床や内壁等などが清掃、消毒等が用意な構造で、器材の洗浄や消毒等を行う衛生設備を有すること。
- (4) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有すること。
- (5) 臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられていること。
- (6) 実験動物管理者が置かれていること。

(実験室の設置)

第 21 条 飼養保管施設以外において、実験室を設置(変更を含む。)する場合は、管理者が実験室(設置・変更)申請書により、歯科大学長等に提出するものとする。

2 歯科大学長等は、申請された実験室を委員会に調査させ、その報告又は助言により、承認又は却下を行うものとする。

3 管理者は、歯科大学長等の承認を得た実験室でなければ、動物実験実施者等に、当該実験室での動物実験等(48 時間以内の一時保管を含む。)を行わせることができない。

(実験室の要件)

第 22 条 実験室は、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有し、実験動物が室内で逸走しても捕獲しやすい環境が維持されていること。
- (2) 排泄物や血液等による汚染に対して清掃や消毒が容易な構造であること。
- (3) 常に清潔な状態を保ち、臭気、騒音、廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置がとられていること。
- (4) 当該実験室を管理する責任者がおかれていますこと。

(飼養保管施設等の維持管理及び改善)

第 23 条 管理者は、実験動物の適正な管理、動物実験等の遂行に必要な飼養保管施設等の維持管理及び改善に努めること。

(飼養保管施設等の廃止)

第 24 条 飼養保管施設等を廃止する場合は、管理者が実験動物飼養保管施設・動物実験室廃止届により、歯科大学長等へ届出すること。

2 歯科大学長等は、廃止届出された飼養保管施設等を委員会に調査させ、その報告により、廃止を承認すること。

3 管理者は、必要に応じて、動物実験責任者と協力し、飼養又は保管中の実験動物を他の飼養保管施設に譲り渡すよう努めること。

(危害等の防止)

第25条 管理者は、逸走した実験動物の捕獲の方法等をあらかじめ定めること。

2 管理者は、人に危害を加える等のおそれのある実験動物が飼養保管施設等外に逸走した場合には、速やかに関係機関へ連絡すること。

3 管理者は、実験動物管理者等が、実験動物由来の感染症やアレルギー等にかかること及び実験動物による咬傷等に対して、予防及び発生時の必要な措置を講じること。

4 管理者は、毒ヘビ等の有毒動物の飼養又は保管をする場合は、人への危害の発生の防止のため、飼養保管基準に基づき必要な事項を別途定めること。

5 管理者等は、実験動物の飼養及び保管並びに動物実験等に關係のない者が実験動物等に接することのないよう必要な措置を講じること。

(緊急時の対応)

第26条 管理者は、関係行政機関との連携の下、地域防災計画等との整合を図りつつ、地震、火災等の緊急時に採るべき措置に関するべき措置についてあらかじめ作成し、関係者に対して周知を図ること。

2 管理者等は、緊急事態発生時において、速やかに、実験動物の保護及び実験動物の逸走による人への危害、環境保全上の問題等の発生の防止に努めること。

(人と動物の共通感染症に係る知識の習得等)

第27条 実験動物管理者等は、人と動物の共通感染症に関する十分な知識の習得及び情報の収集に努めること。また、管理者、実験動物管理者及び実験実施者は、人と動物の共通感染症の発生時において必要な措置を迅速に講じることができるよう、公衆衛生機関等との連絡体制の整備に努めること。

(教育訓練)

第28条 歯科大学長等は、実験動物管理者等に、以下の事項に関する所定の教育訓練を受講させること。

- ①法令、指針等、歯科大学等の定める諸規則等に関する事項
 - ②動物実験等の方法に関する基本的事項に関する事項
 - ③実験動物の飼養又は保管に関する基本的事項に関する事項
 - ④安全確保、安全管理に関する事項
 - ⑤人獣共通感染症に関する事項
 - ⑥その他、適切な動物実験等の実施に関する事項
- 2 歯科大学長等は、教育訓練の実施日、教育内容、講師及び受講者名の記録を保存すること。

(自己点検・評価及び検証)

第29条 歯科大学長等は、委員会に毎年、基本指針への適合性並びに飼養保管基準の遵守状況に関し、自己点検・評価を行わせること。

- 2 委員会は、動物実験等の実施状況等や飼養保管状況に関する自己点検・評価を行い、その結果を歯科大学長等に報告しなければならない。
- 3 委員会は、管理者、実験動物管理者、動物実験責任者及び飼養者等に、自己点検・評価のための資料を提出させることができる。
- 4 歯科大学長等は、自己点検・評価の結果について、可能な限り、外部の機関等による検証を実施するよう努めること。

(情報公開)

第30条 歯科大学長等は、歯科大学等における動物実験等に関する情報（動物実験等に関する規則等、実験動物の飼養保管状況、自己点検・評価、外部の機関等による検証の結果の情報等）を毎年1回程度公表すること。

(準用)

第31条 第2条第5号に定める実験動物以外の動物を動物実験等に供する場合においても、飼養保管基準の趣旨に沿って行うよう努めること。

(適用除外)

第32条 本規則は、産業等の利用に供するために、実験動物（一般に、産業動物と見なされる動物種に限る）を飼養し、又は保管をする管理者等及び生態の観察を行うことを目的として実験動物の飼養又は保管をする管理者等には適用しない。但し、歯科大学等における研究、教育及び実習に供する動物は、原則、実験動物であって、これらの管理者等には本基準が適用される。また、畜産分野における試験研究であっても、血液の採取、人工繁殖や外科的な処置（家畜改良増殖法に基づくものを除く）を行う管理者等には本基準が適用される。産業等の利用に供するために、飼養し、又は保管している動物については、「産業動物の飼養及び保管に関する基準（昭和62年総理府告示22号）」、生態の観察を行うことを目的とする動物の飼養及び保管については、「家庭動物等の飼養及び保管に関する基準（平成14年環境省告示第37号）」に準じて行うこと。

(雑則)

第33条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、歯科大学長等が別に定める。

附 則

この指針は、平成2年6月26日から適用される。

(平成2年6月1日から施行する)

附 則

この改正指針は、平成9年8月1日から施行する。

附 則

この改正指針は、平成13年4月20日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

附 則

この改正指針は、平成16年8月18日から施行し、平成16年8月18日から適用する。

附 則

- 1 福岡歯科大学動物実験指針（平成16年8月18日施行）を福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験規則に改正する。
- 2 この改正規則は、平成17年3月15日から施行し、平成17年3月15日から適用する。

附 則

- 1 福岡歯科大学アニマルセンター使用規則（平成18年3月24日施行）については、これを廃止する。
- 2 この改正規則は、平成19年7月31日から施行し、平成19年7月31日から適用する。

附 則

この改正規則は、平成28年9月23日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

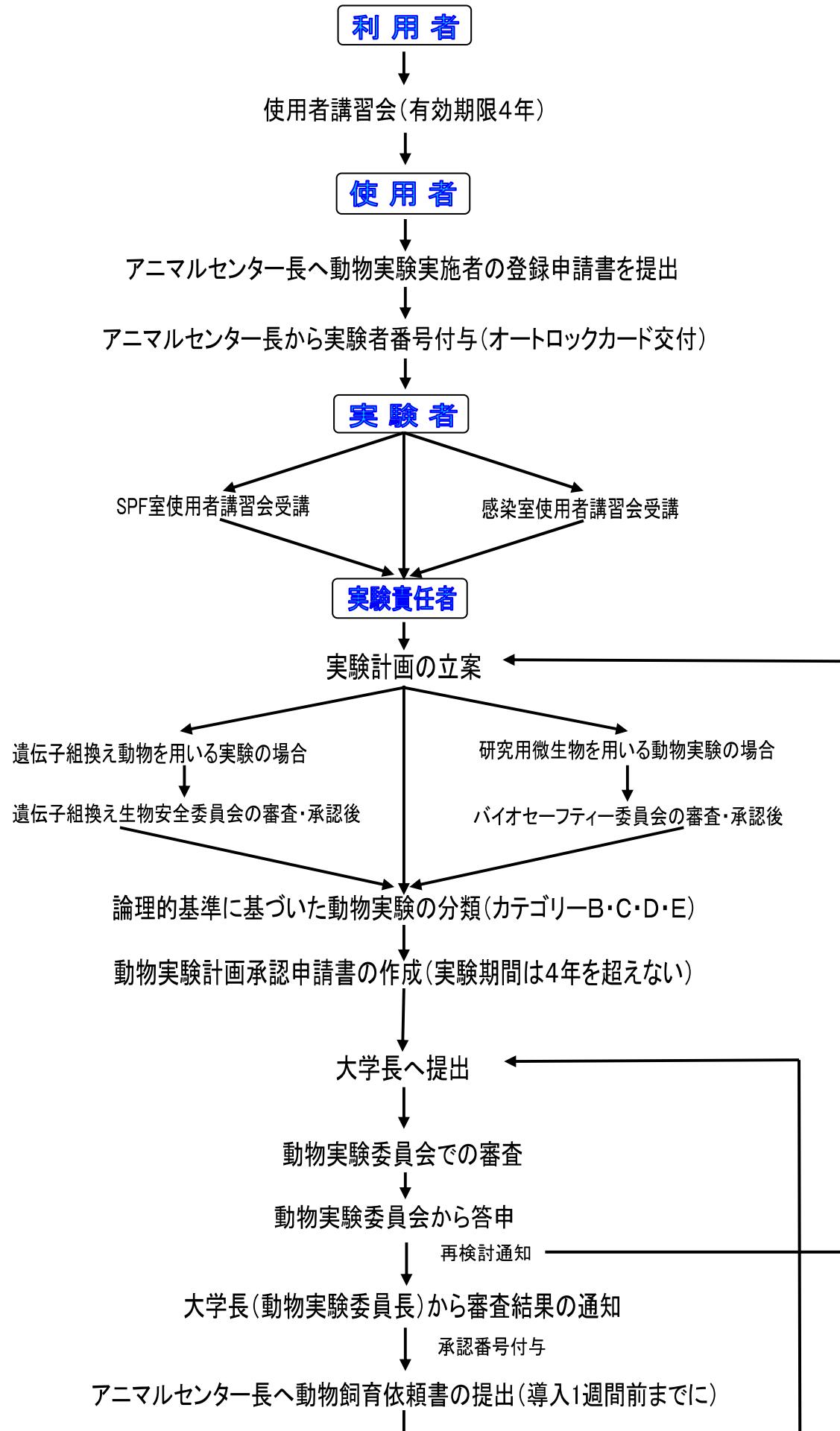
附 則

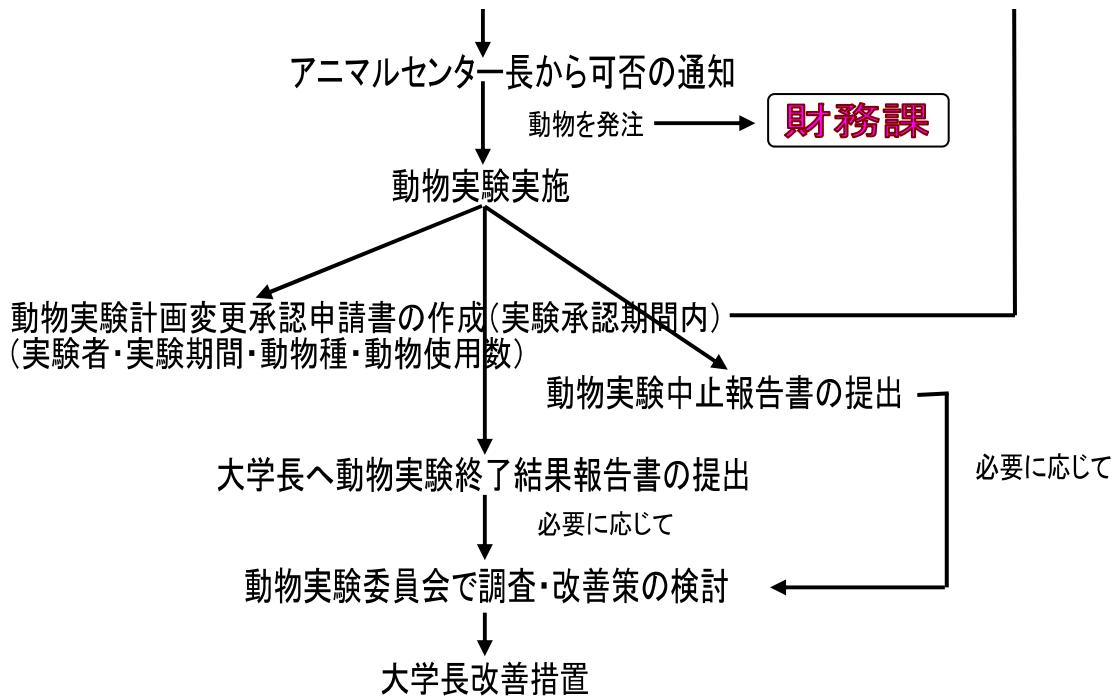
この改正規則は、平成29年3月8日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則

この改正規則は、令和2年3月24日から施行する。

動物実験手順の概略図





動物実験委員会（平成31年4月1日 現在）

	氏名	職名	カテゴリ（※）
委員長（センター長）	田中 芳彦	感染生物学・教授	①
副委員長（副長）	泉 利雄	歯科保存学・准教授	①
委 員	永嶋 哲也	医療倫理学・教授	④
委 員	岡部 幸司	細胞生理学・教授	④
委 員	都築 尊	有床義歯学・教授	③
委 員	壬生 正博	言語情報学・教授	④
委 員	八田 光世	分子機能制御学・教授	②
委 員	大久保 つや子	看護大・基礎・専門基礎・教授	④
委 員	力丸 哲也	短大・歯科衛生学科・教授	④
委 員	徳本 正憲	内科学・准教授	③
委 員	鍛治屋 浩	細胞生理学・講師	④
委 員	進 正史	細胞生理学・講師	②
委 員	和才 広輝	アニマルセンター管理係 係長	⑤
		13名	

カテゴリーの分類（※）

- ①アニマルセンター長及び副長
- ②動物実験等に関して優れた識見を有する者
- ③実験動物に関して優れた識見を有する者
- ④その他学識経験を有する者
- ⑤その他、委員長が特に必要と認めた者

福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学動物実験委員会規則第3条より抜粋

アニマルセンター管理職員（平成 31 年 4 月 1 日 現在）

センター長（兼任）	田中 芳彦	（感染生物学 教授）
センター副長（兼任）	泉 利雄	（歯科保存学 准教授）
事務職員（係長兼任）	和才 広輝	
技能職員	山下 貴成	
補助職員	松本 富子	（事務補佐）
補助職員	高橋 章子	
補助職員	坂本 知加子	
補助職員	栗山 亜矢子	
兼務職員	多羅 政勝	（施設課主任）

アニマルセンター管理運営委員会（平成 30 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

委員長（センター長）	田 中 芳 彦	（感 染 生 物 学 教 授）
副委員長（副長）	泉 利 雄	（歯 科 保 存 学 准 教 授）
委 員	永 嶋 哲 也	（医 療 倫 理 学 教 授）
委 員	岡 部 幸 司	（細 胞 生 理 学 教 授）
委 員	都 築 尊	（有 床 義 歯 学 教 授）
委 員	壬 生 正 博	（言 語 情 報 学 教 授）
委 員	八 田 光 世	（分子 機能制御学 教 授）
委 員	大 久 保 つ や 子	（看護大 基礎・専門基礎 教授）
委 員	力 丸 哲 也	（短大 歯科衛生学科 教 授）
委 員	徳 本 正 憲	（内 科 学 准 教 授）
委 員	鍛 治 屋 浩	（細 胞 生 理 学 講 師）
委 員	進 正 史	（細 胞 生 理 学 講 師）
委 員	和 才 広 輝	（アニマルセンター管理係 係長）

以上 構成委員 13名

編集後記

令和2年度から、田中芳彦センター長、和才広輝アニマルセンター係長、山下貴成アニマルセンター職員とともに、私、岡 晴子が新しくアニマルセンター副長として運営に関わっていくことになりました。皆様、どうぞ宜しくお願ひいたします。

今年度は、今年1月より猛威をふるった新型コロナウィルス COVID-19 の感染拡大によって、福岡学園の運営そのものが大きな影響を受けました。アニマルセンターの運営についても使用者講習会の開催時期などが心配されましたが、取得を急がれている新規対象者は Skype を使った遠隔講習で対応できたことを含めて、大きな期日の遅れを伴うことなく、新規および更新のための講習会を行うことができました。ご協力誠にありがとうございました。

動物実験に関する自己点検と評価におきましては、動物実験計画書の立案・審査・承認・結果報告の実施において、実験計画の進行状況を絶えず認識することを検討いたしました。そこで、毎年度終了時には、当該年度における使用動物数、動物実験の進捗状況、成果等を『動物実験実施状況報告書』に記載し提出をお願いすることになりました。書式は、アニマルセンターホームページよりダウンロードできますので、対象となる先生方は宜しくお願ひいたします。

また、福岡歯科大学医科歯科総合病院が新築され、旧病院建物の解体工事が開始しております。アニマルセンターへのアクセスが、少々、難しくなりご迷惑をおかけしております。何かお気づきの点などございましたら、遠慮なくお知らせ頂ければと存じます。利用者の皆様の研究活動が今後さらに活発に、そして円滑に進められるよう、運営スタッフ一同努力してまいります。今後も変わらないご協力を賜りますことを心よりお願い申し上げます。

(センター副長 岡 晴子)

令和2年12月発行

編集発行者 福岡歯科大学アニマルセンター 田中芳彦
〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
TEL (092) 801-0411 (内線6161)
FAX (092) 801-4909